

令和4年度 情報モラル調査結果

岐阜県教育委員会

【 実施概要 】

<調査対象> 岐阜県内公立の小中高等学校及び特別支援学校高等部
 小学校 1年～6年 の児童
 中学校 1年・2年・3年 の生徒
 高等学校 1年・2年・3年 の生徒
 特別支援学校 高等部 1年・2年・3年 の生徒

<調査方法> 各学校で、校舎別・課程別・学年別に1クラス以上を抽出し、アンケート調査を実施

<実施期間> 令和4年 9月～10月

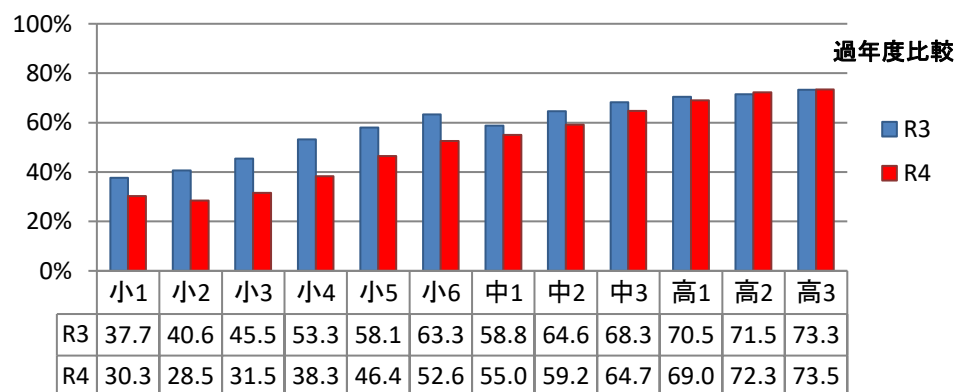
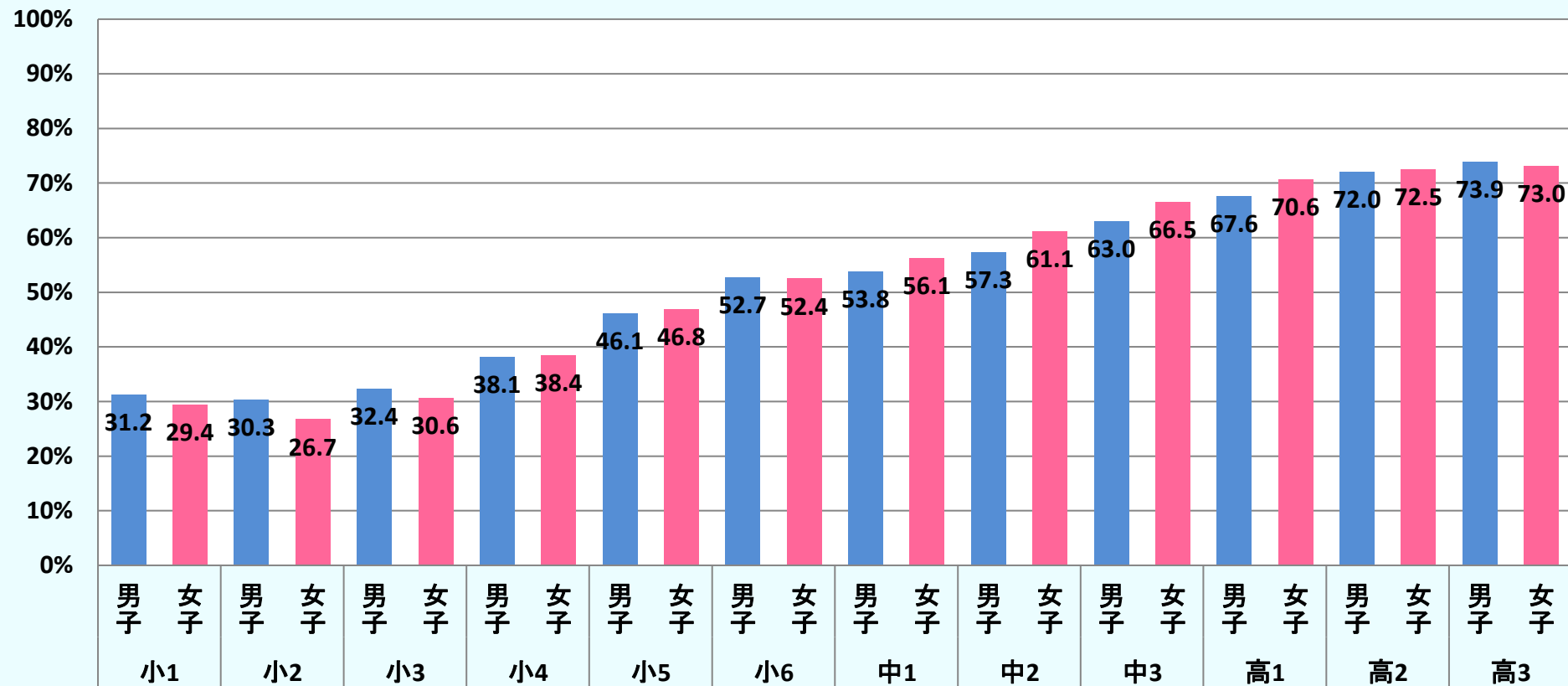
<調査数> ※ 「高」は特別支援学校高等部を含む
 (令和4年度)

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小	中	高・特	合計
学校数	360	360	360	360	360	360	176	176	176	88	88	88	360	176	88	624
人数	8,606	8,677	9,351	9,478	9,611	9,991	6,342	6,216	6,275	3,708	3,453	3,475	55,714	18,833	10,636	85,183
男子	4,401	4,327	4,804	4,730	4,806	5,101	3,167	3,160	3,167	1,877	1,804	1,809	28,169	9,494	5,490	43,153
女子	4,205	4,350	4,547	4,748	4,805	4,890	3,175	3,056	3,108	1,831	1,649	1,666	27,545	9,339	5,146	42,030
男女比(%)	51 : 49	50 : 50	51 : 49	50 : 50	50 : 50	51 : 49	50 : 50	51 : 49	50 : 50	51 : 49	52 : 48	52 : 48	51 : 49	50 : 50	52 : 48	51 : 49

(令和3年度)

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小	中	高・特	合計
学校数	361	361	361	361	361	361	178	178	178	88	88	88	361	178	88	627
人数	7,967	8,212	8,445	8,604	9,246	9,118	5,230	5,436	5,548	3,054	3,180	3,619	51,592	16,214	9,853	77,659
男子	4,016	4,212	4,250	4,340	4,706	4,665	2,676	2,760	2,800	1,513	1,626	1,818	26,189	8,236	4,957	39,382
女子	3,951	4,000	4,195	4,264	4,540	4,453	2,554	2,676	2,748	1,541	1,554	1,801	25,403	7,978	4,896	38,277
男女比(%)	50 : 50	51 : 49	50 : 50	50 : 50	51 : 49	51 : 49	51 : 49	51 : 49	50 : 50	50 : 50	51 : 49	50 : 50	51 : 49	51 : 49	50 : 50	51 : 49

Q1. 家に、インターネット接続ができて、あなたが使えるパソコンはありますか。



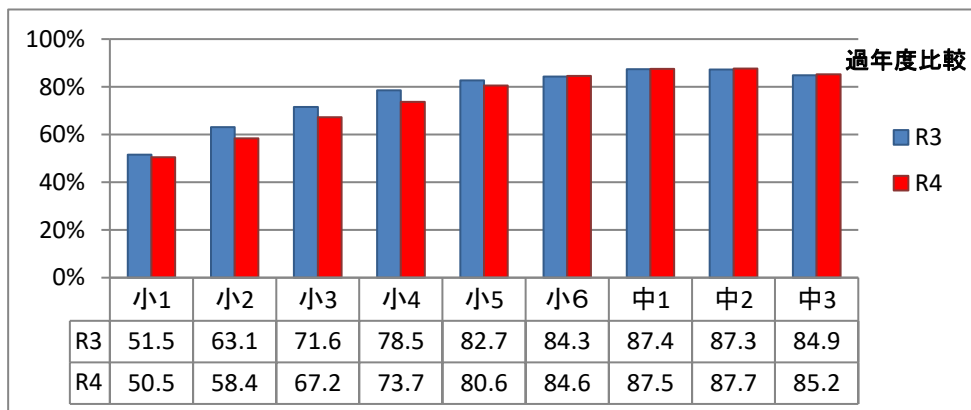
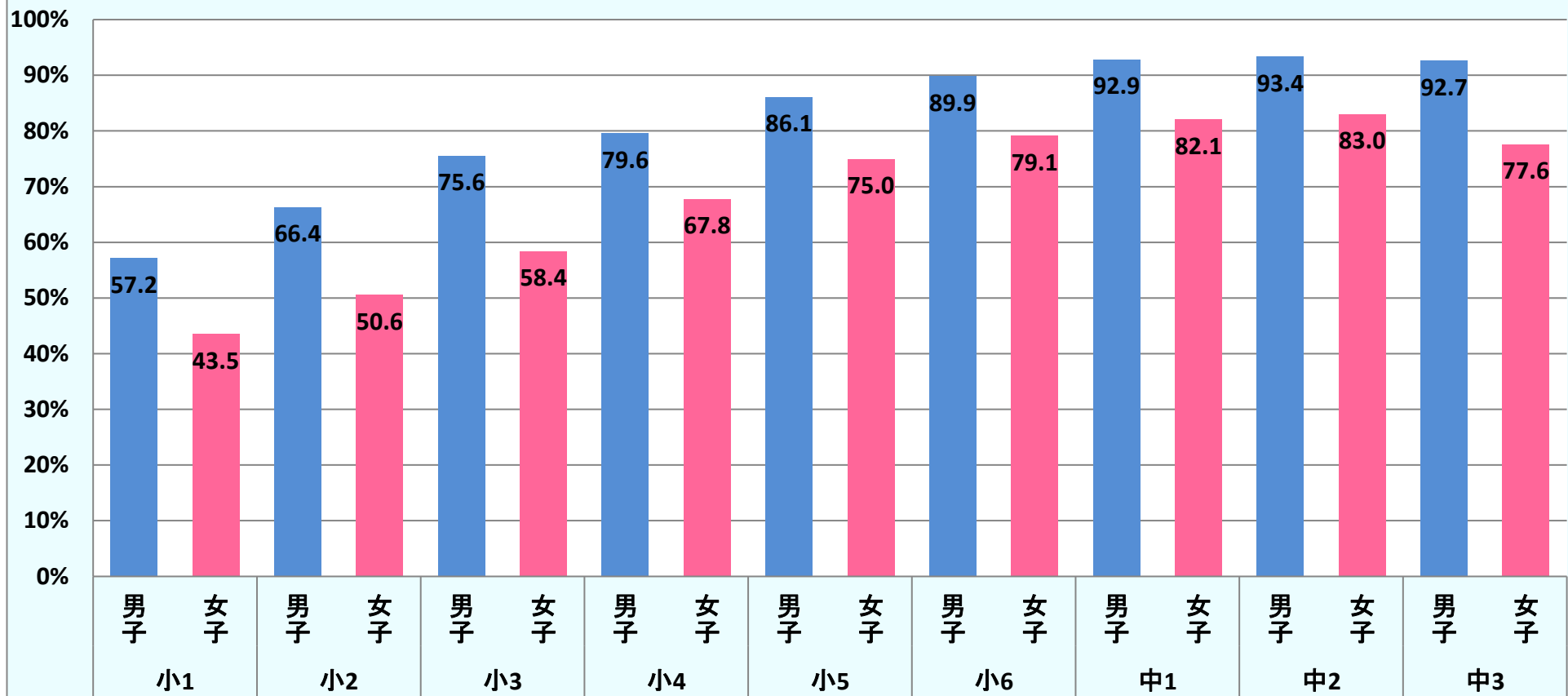
【傾向】

・学年が上がるにつれ、インターネットに接続できる環境がある。

【指導・啓発ポイント】

- ・セキュリティソフトがインストールされているか確認が必要。
- ・大人がクレジットカード情報等を記憶させた状態で使用していると子どもがそのまま使用可能となるため注意。

Q2.あなたは、通信型ゲーム機や携帯音楽プレーヤーをもちますか。



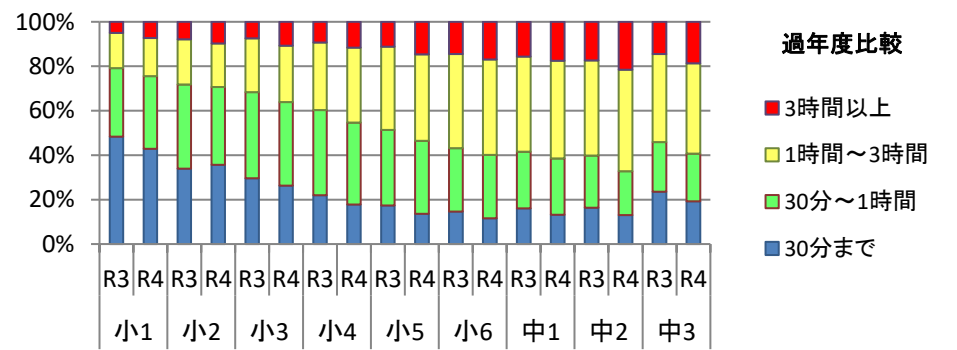
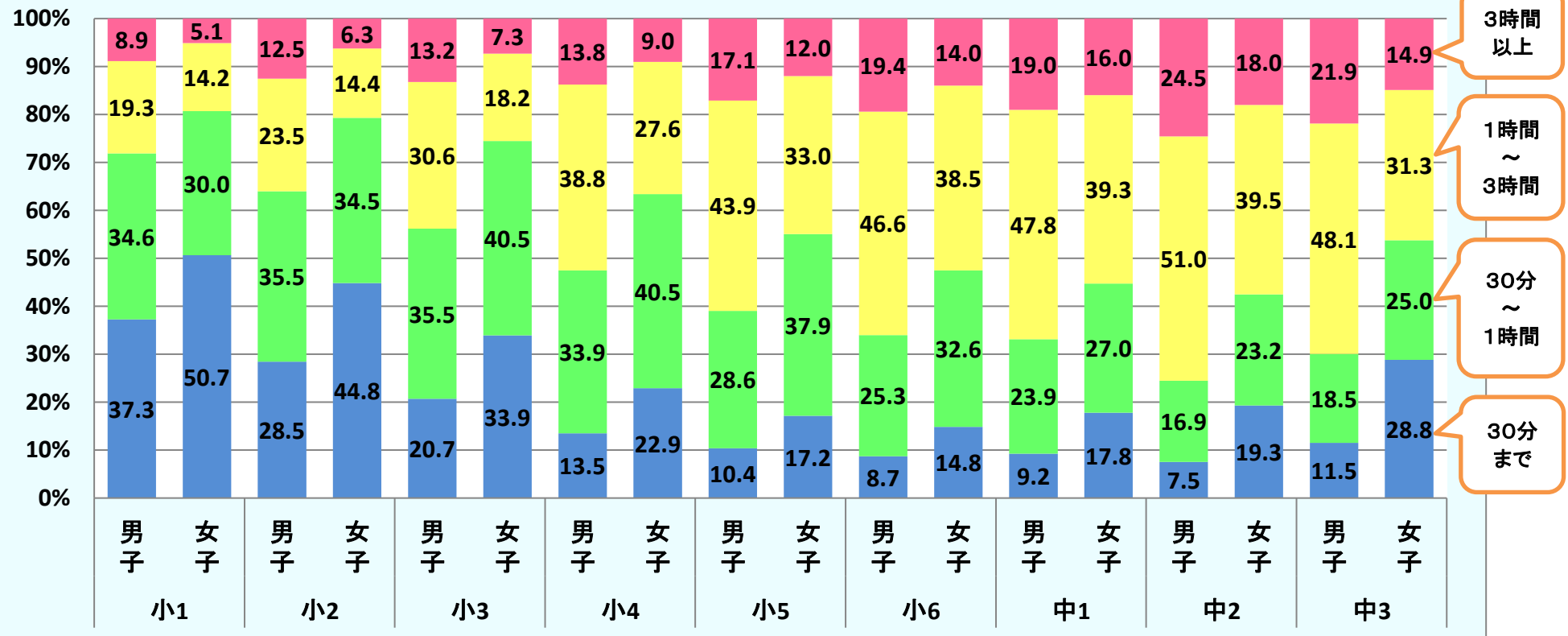
【傾向】

- ・学年が上がるにつれ、所持率が高くなる傾向。
- ・どの学年も男子の所持率が非常に高い。

【指導・啓発ポイント】

- ・通信型ゲーム機からでもインターネット接続は可能であるため、面識のない者同士つながることができる。犯罪に巻き込まれないよう安易に個人情報を掲載しないこと等、継続した啓発が必要。

Q3.通信型ゲーム機の使用時間は、平日一日あたりどれくらいですか。
 (Q2で「もっている」と答えた児童生徒のみ回答)



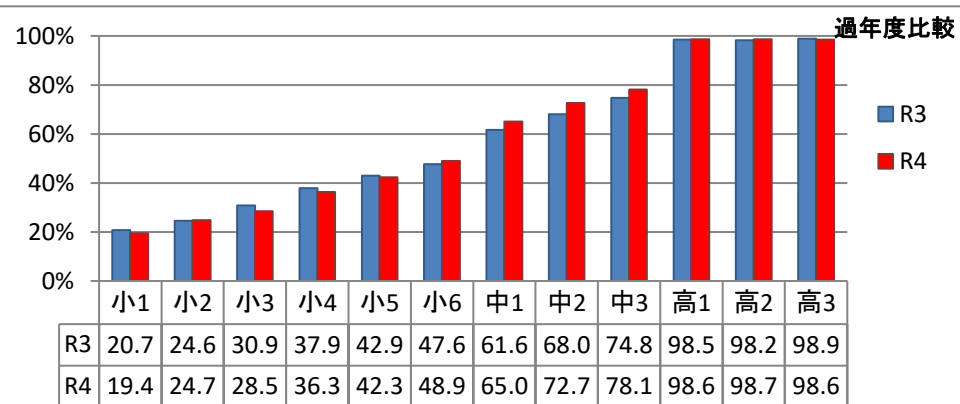
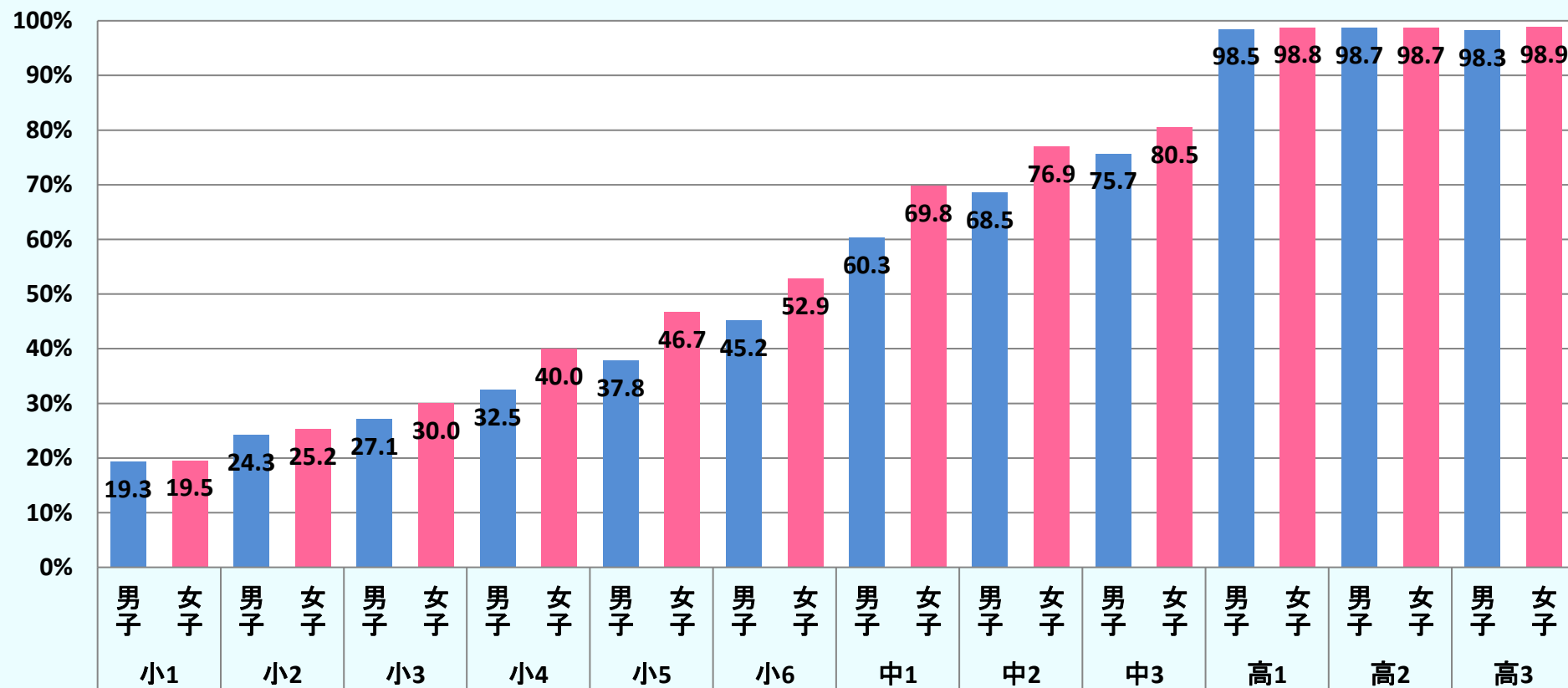
【傾向】

- ・学年が上がるにつれ、使用時間が長くなる傾向。
- ・どの学年も男子の使用時間が長い。
- ・前年度と比較し、3時間以上使用している児童生徒が増加。

【指導・啓発ポイント】

- ・家庭でのルールづくりや定期的な見直しについて、児童生徒だけでなく、保護者への啓発も継続する。

Q4. あなたは、自分の携帯電話を持っていますか。



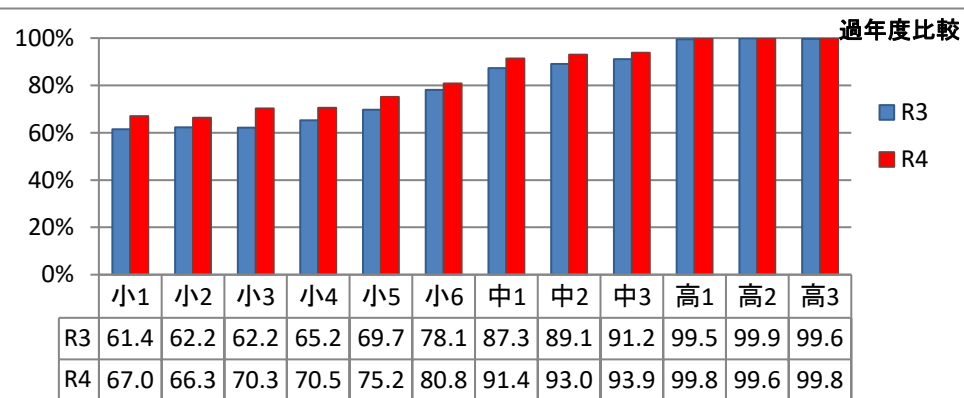
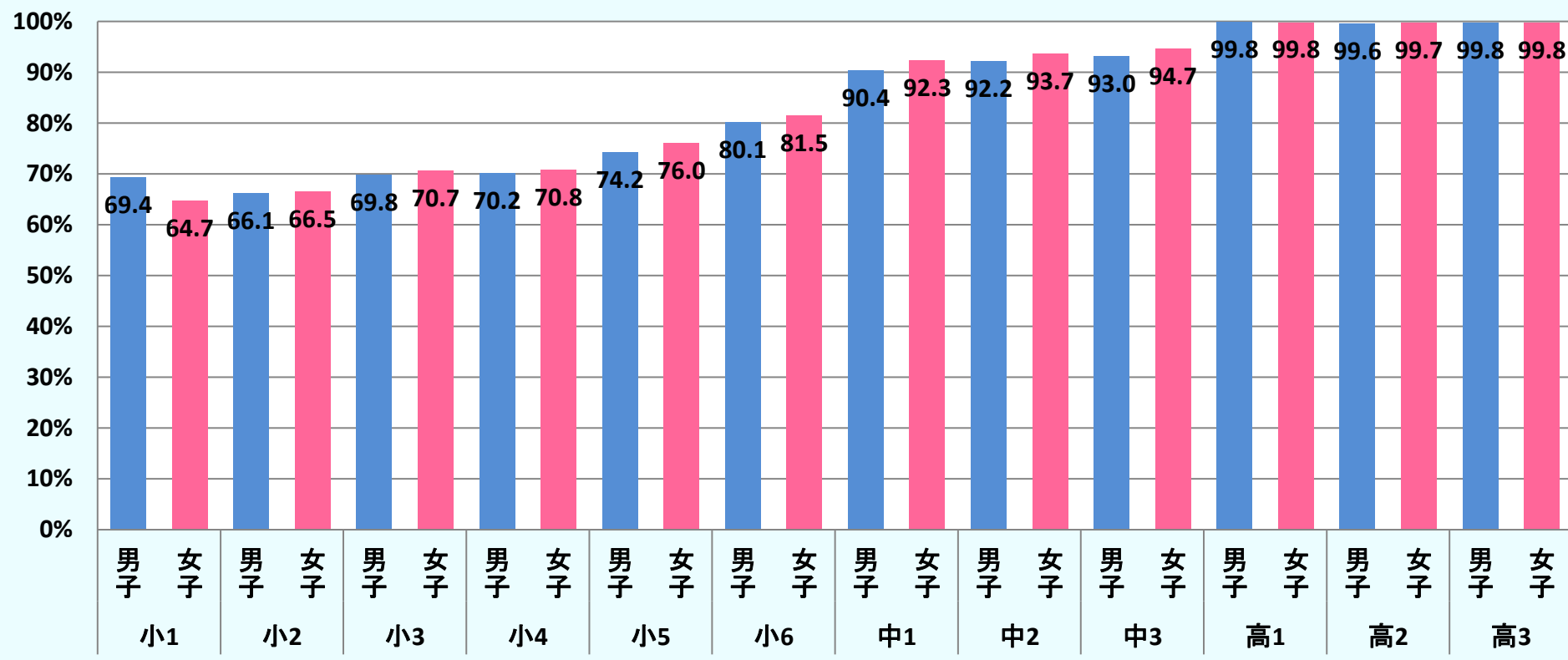
【傾向】

- ・どの学年も女子の所持率が高い。
- ・高校生は男女ともほぼ所持している。
- ・前年度と比較し、中学生の所持率が上がっている。

【指導・啓発ポイント】

- ・フィルタリングの設定について、継続的に周知。保護者が使用していた携帯電話を、引き続き子どもが使用する場合は、特に注意が必要。

Q5.あなたの携帯電話は、スマートフォンですか。
(Q4で携帯電話を「もっている」と答えた児童生徒のみ回答)



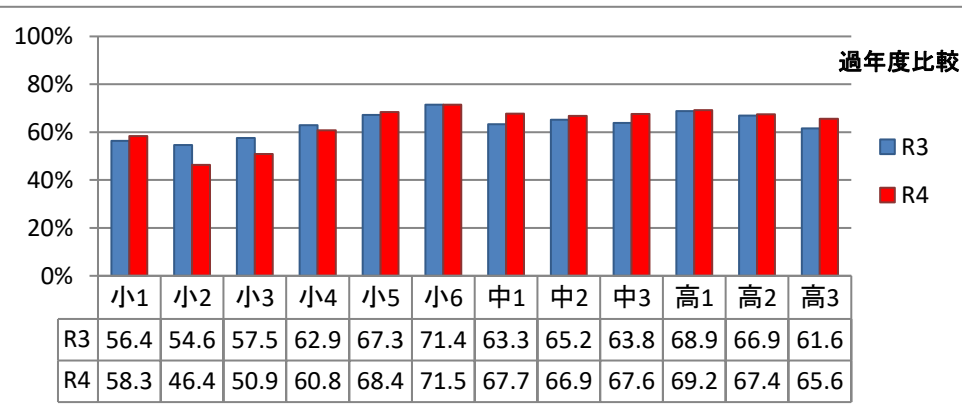
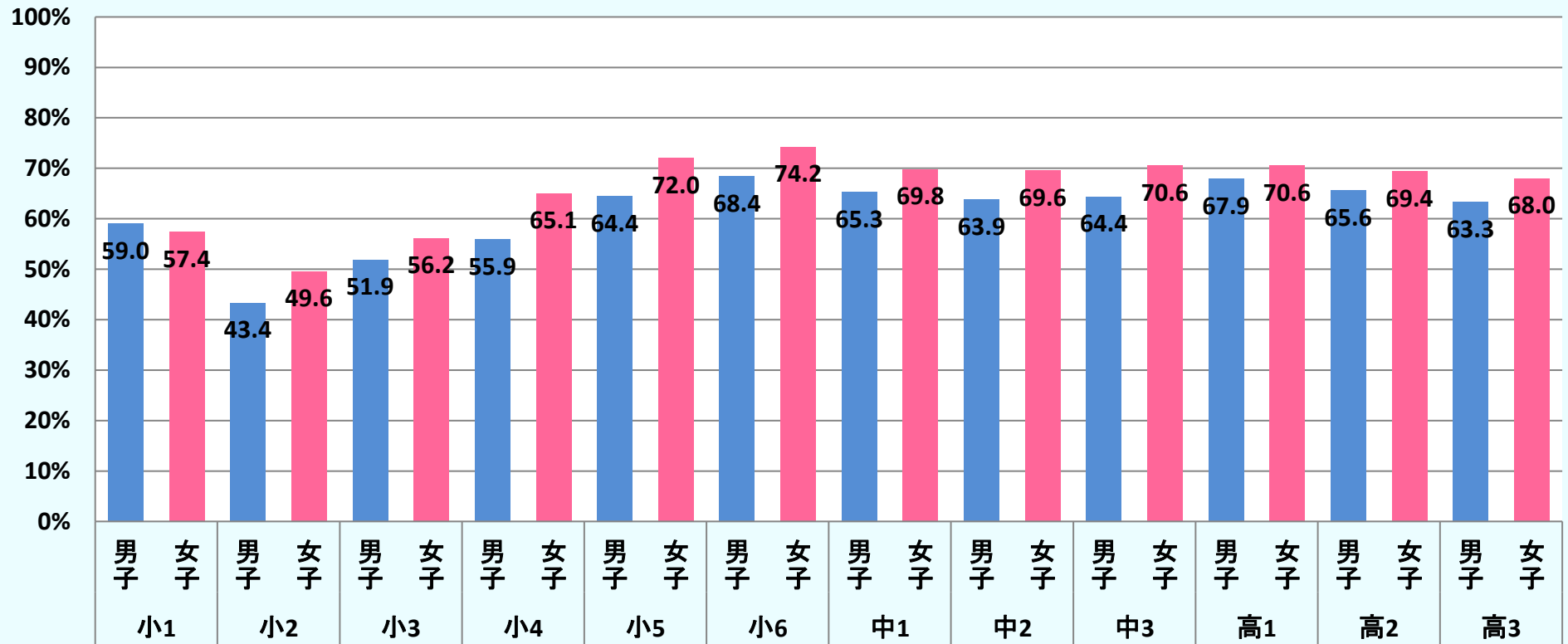
【傾向】

- ・携帯電話を所持している者の内、中高生の90%以上がスマートフォン。
- ・前年度と比較し、スマートフォンの所持率が増加。特に、小学生の増加が顕著。

【指導・啓発ポイント】

- ・有害サイトへアクセスする危険性が増すため、フィルタリング設定の重要性について、継続的に啓発する。

Q6.フィルタリングをしていますか。
 (Q4で携帯電話を「もっている」と答えた児童生徒のみ回答)



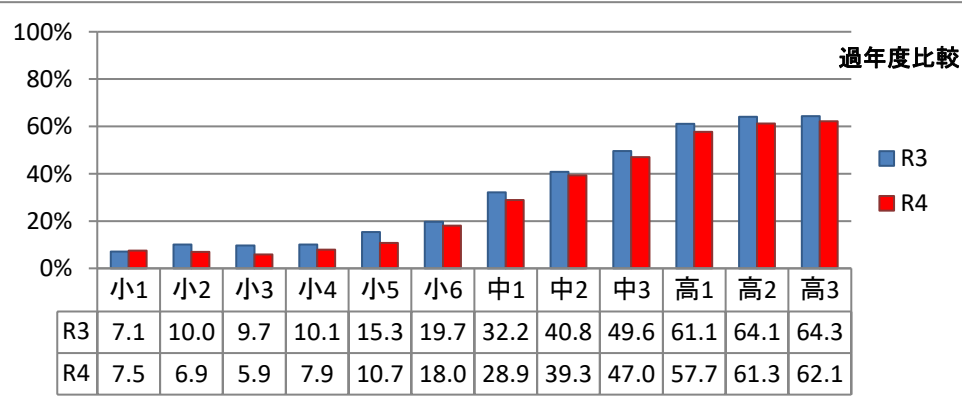
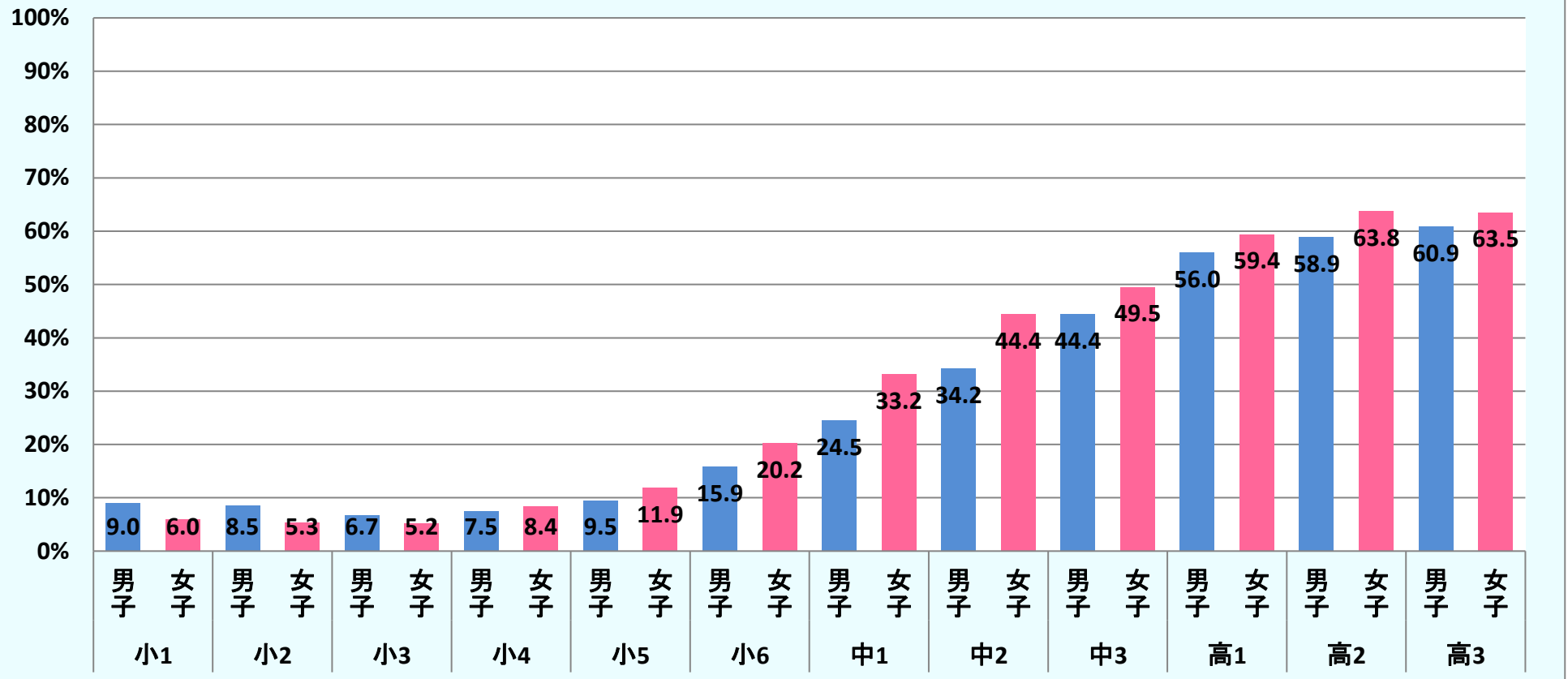
【傾向】

- ・小学校低学年の設定率が低い。
- ・前年度と比較し、中高生の設定率が上昇。

【指導・啓発ポイント】

- ・フィルタリングを設定することは、自らの安全を守ることににつながることを、繰り返し周知する必要がある。

Q7.あなたは、インターネットや携帯電話でSNSに書き込みをしたことがありますか。



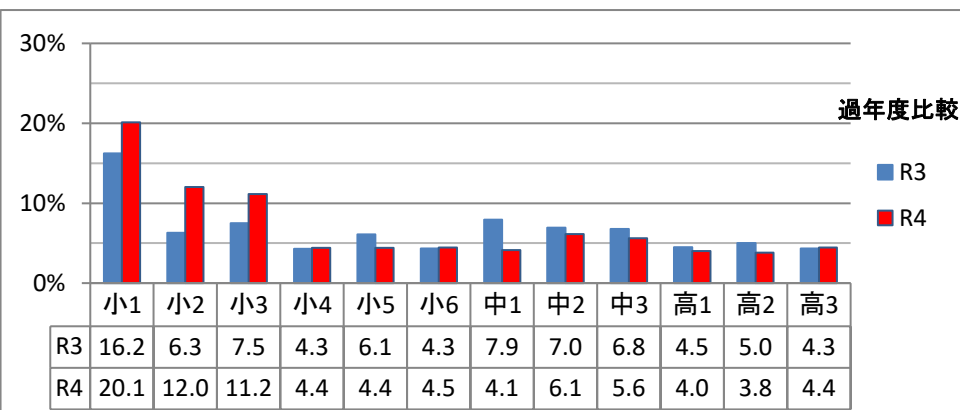
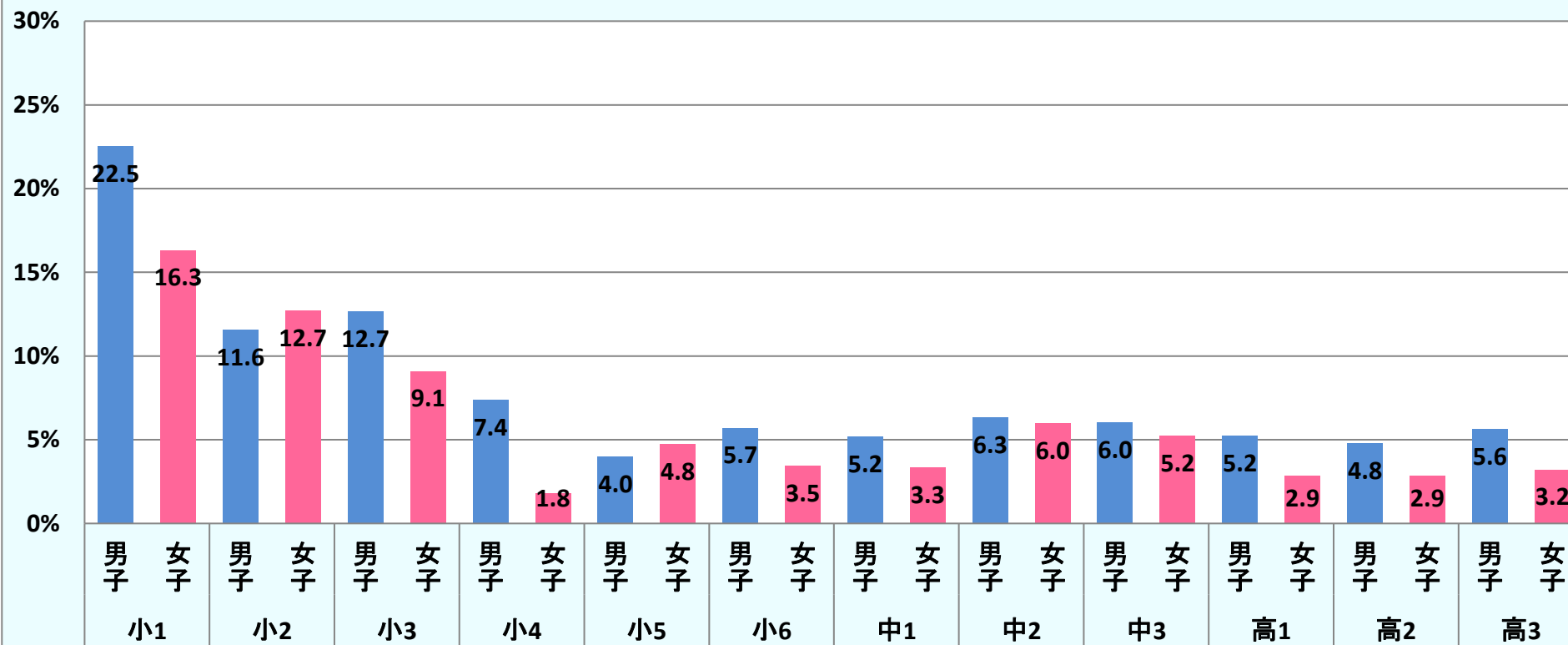
【傾向】

- ・学年が上がるにつれ、書き込み率が上昇。
- ・小学校高学年・中学生・高校生は、女子の書き込み率が高い。
- ・前年度と比較し、書き込み率は全体的に減少。

【指導・啓発ポイント】

- ・SNSに他人を誹謗中傷するような書き込みをすることは、侮辱罪や名誉毀損罪等にもつながる行為であることを、学校や家庭において継続的に指導する。

Q8.あなたは、他人の悪口や個人情報を公開するような書き込みをしたことがありますか。
 (Q7で「書き込みをしたことがある」と答えた児童生徒のみ回答)



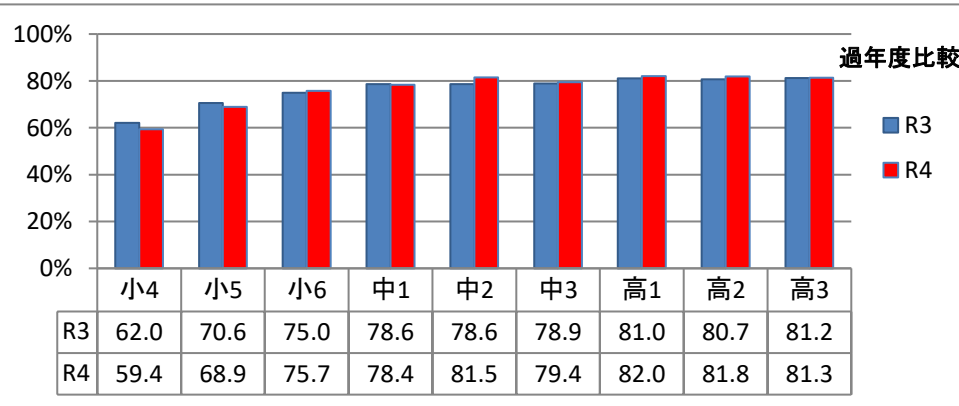
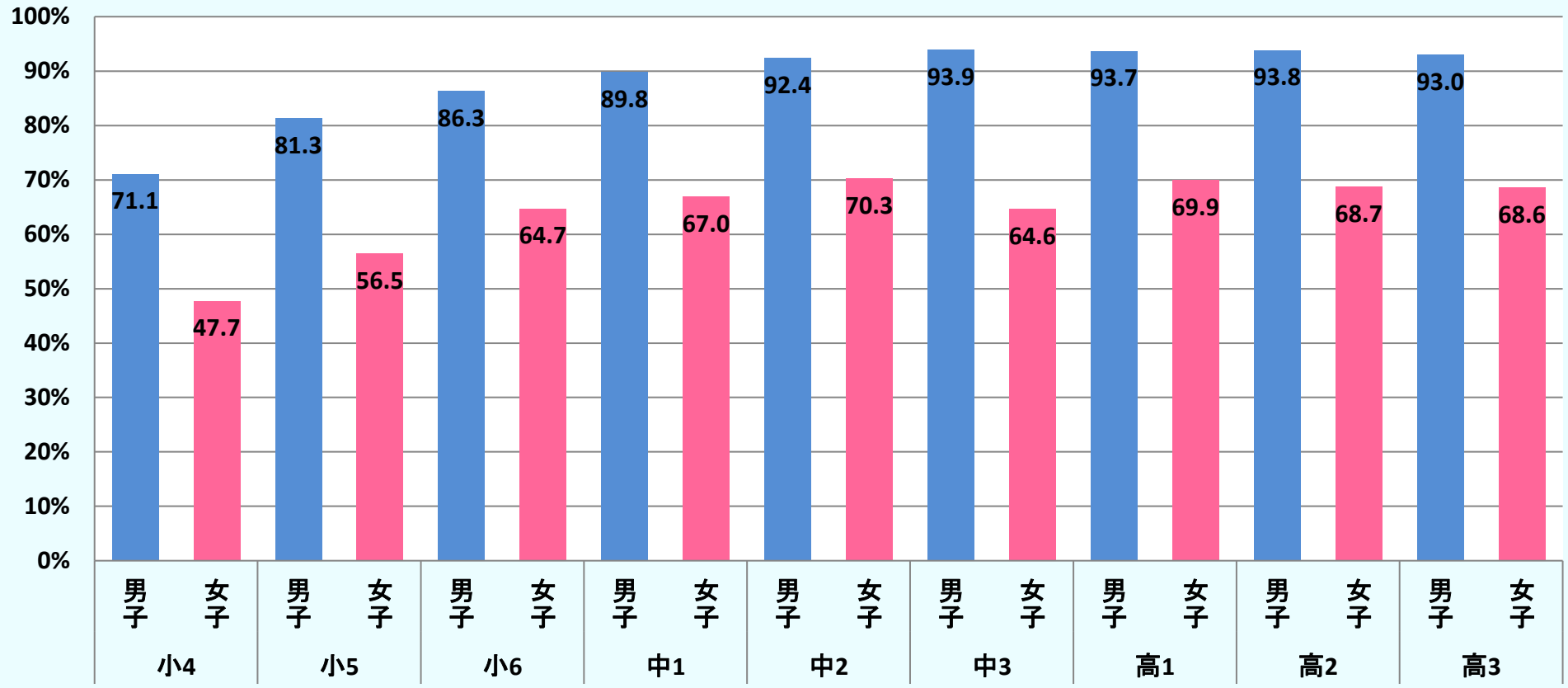
【傾向】

- ・小学校低学年の書き込み率が高い。前年度と比較しても、急激に増加している。
- ・前年度と比較し、中高生の書き込み率は減少傾向。

【指導・啓発ポイント】

- ・小学校低学年は、スマートフォンの所持率が増加しているため、早い段階から、スマートフォンの正しい使用の仕方やトラブルに発展する危険性について、教え込む必要がある。

Q9.あなたは、オンラインゲームをしたことがありますか。



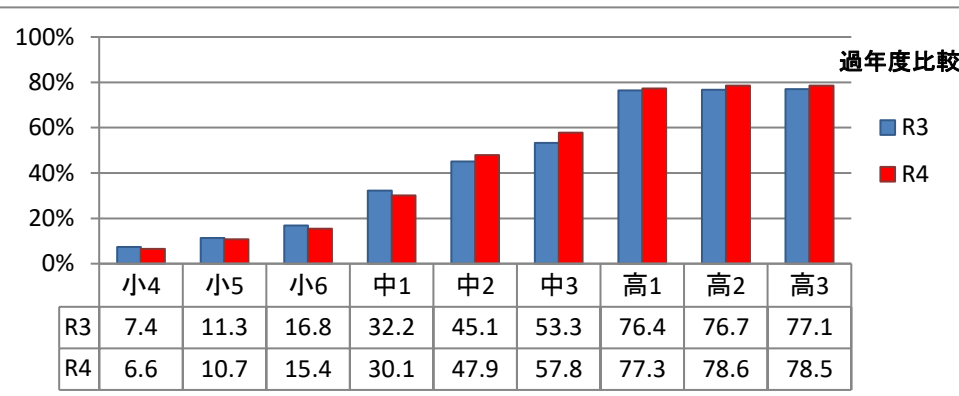
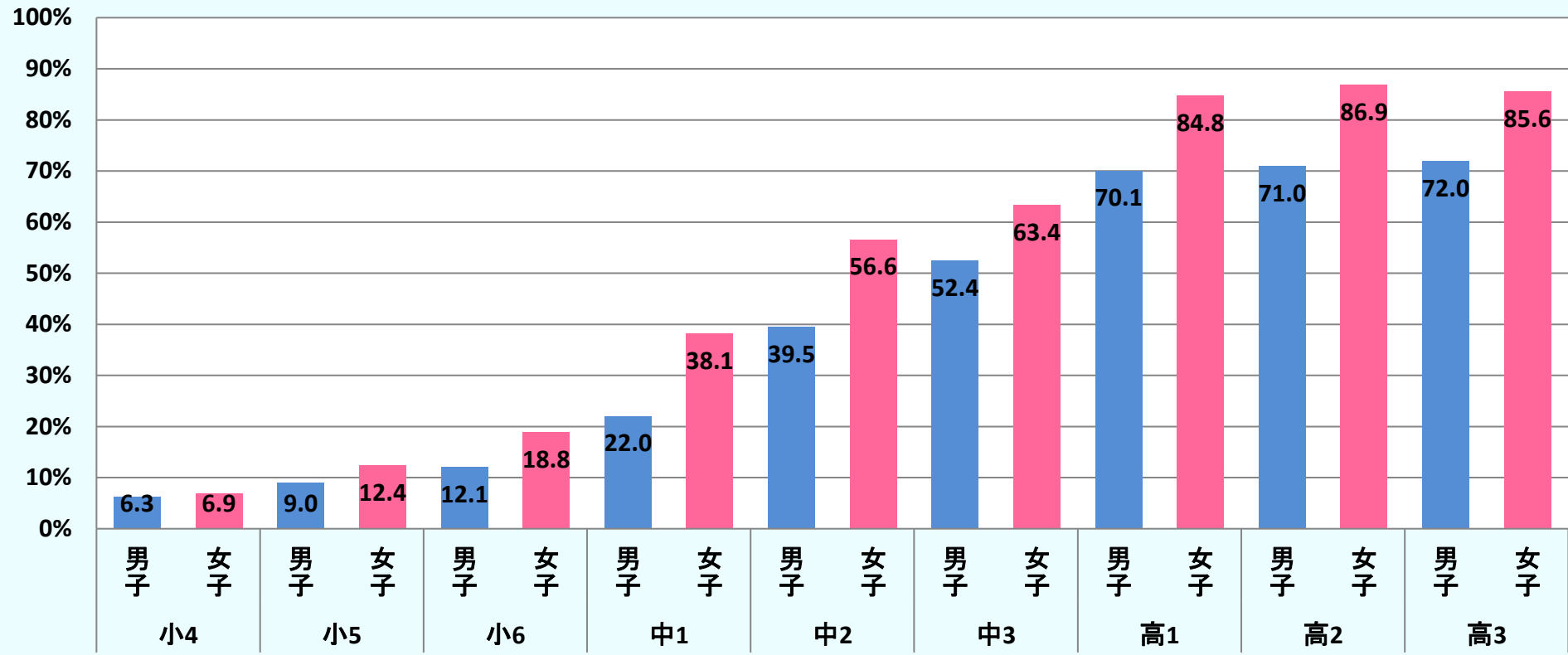
【傾向】

- ・どの学年も男子の利用率が高い
- ・前年度と比較し、中高生が若干の増加傾向。

【指導・啓発ポイント】

- ・チャットで交流できるオンラインゲームが多いため、犯罪や大きなトラブルに発展しないよう、継続的な注意喚起が必要。
- ・年齢区分(レーティング)に応じたゲームを利用するよう、児童生徒、保護者に啓発する。

Q10.あなたは、携帯電話やパソコンから見ることのできる自分のホームページ
(ブログ・インスタ等を含む)をもっていますか。



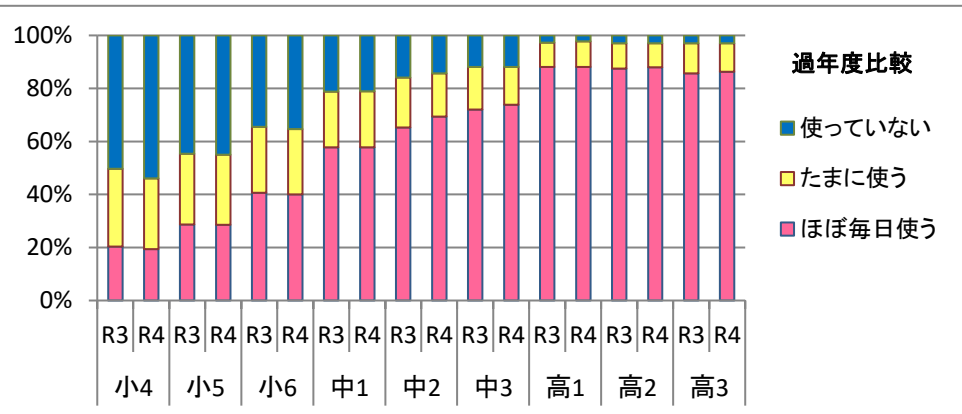
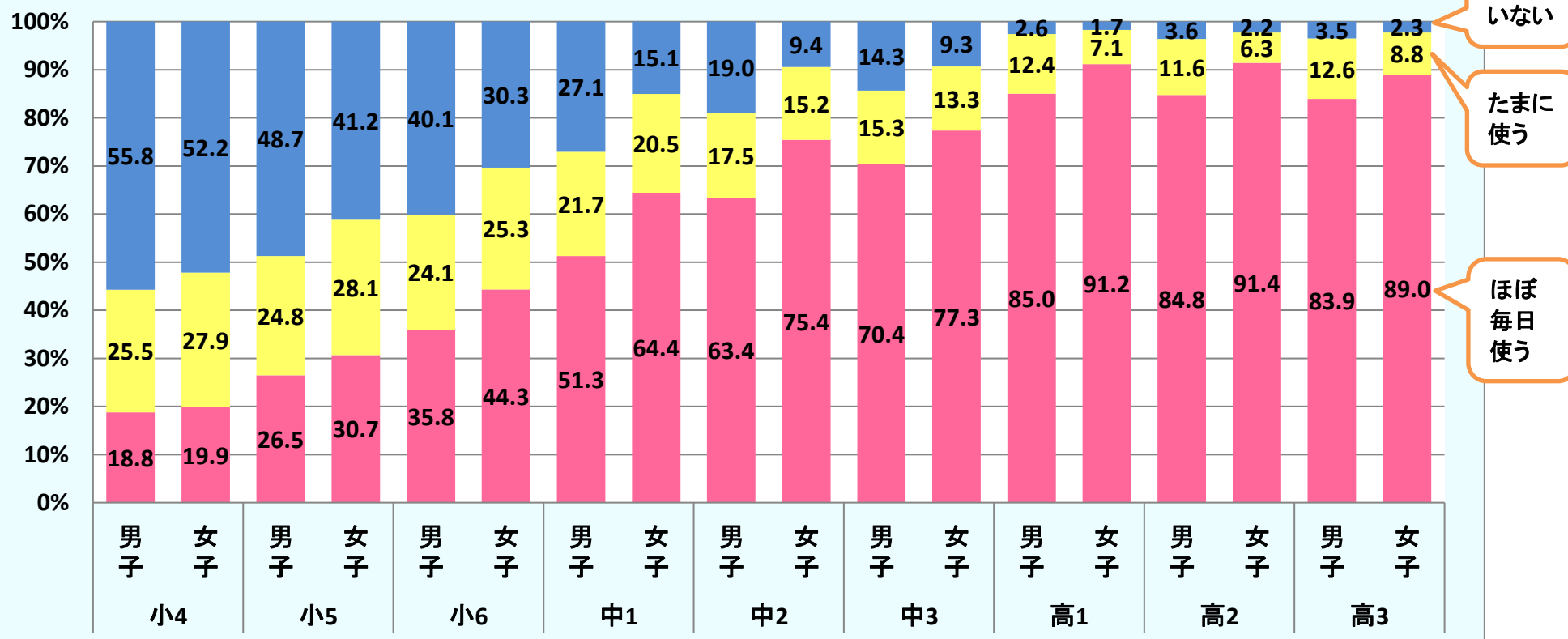
【傾向】

- ・学年が上がるにつれ、開設率が高くなる傾向。
- ・どの学年も女子の開設率が高い。

【指導・啓発ポイント】

- ・個人情報を掲載することで、犯罪に巻き込まれるリスクが高くなる。自分だけでなく、家族や友人の情報についても、安易に掲載しないよう継続した指導が必要。

Q11.ホームページを見たり、メールやチャット、SNS、オンラインゲームをしたりするために、携帯電話をどれくらい使いますか。



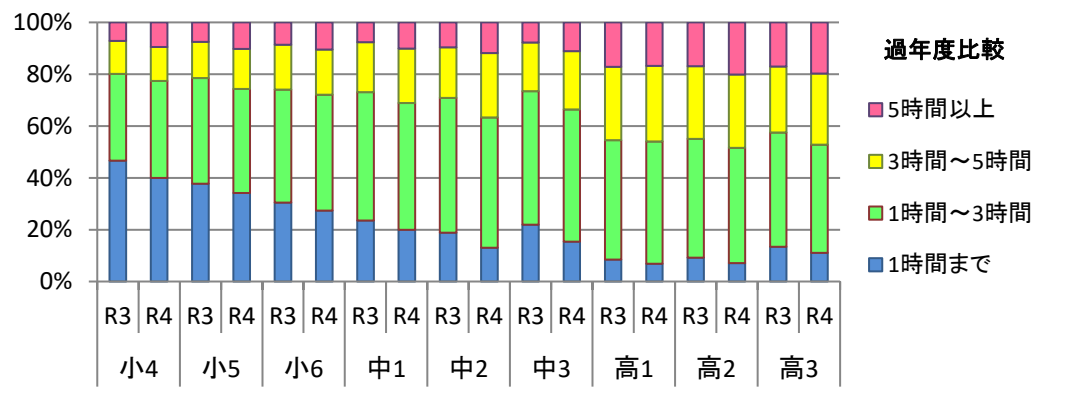
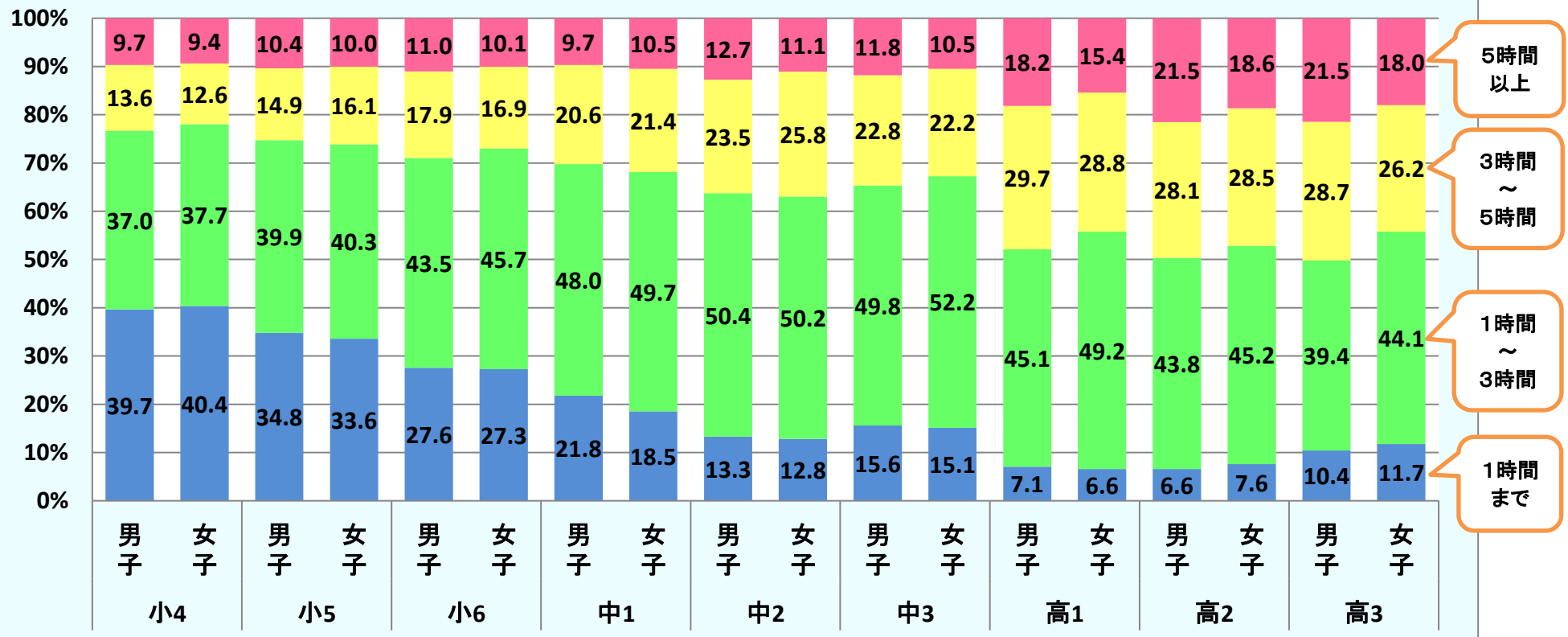
【傾向】

- ・男女とも学年が上がるにつれ、使用率が高くなる傾向。
- ・前年度と比較し、中高生の「ほぼ毎日使う」割合が増加。

【指導・啓発ポイント】

- ・携帯電話(スマートフォン含む)の使用時間や使用方法等、家庭でのルールづくりや定期的な見直しについて、児童生徒だけでなく、保護者への啓発も継続する。

Q12.使用時間は一日あたりどれくらいですか。
 (Q11で「ほぼ毎日使う」と答えた児童生徒のみ回答)



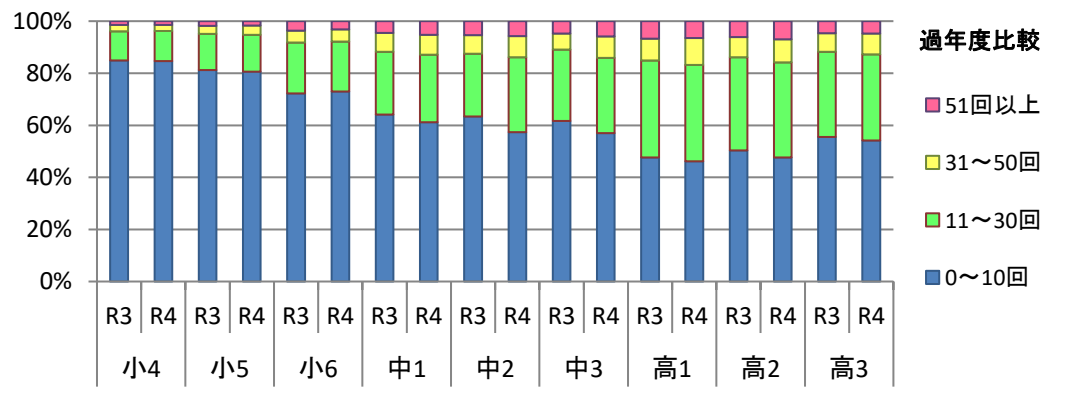
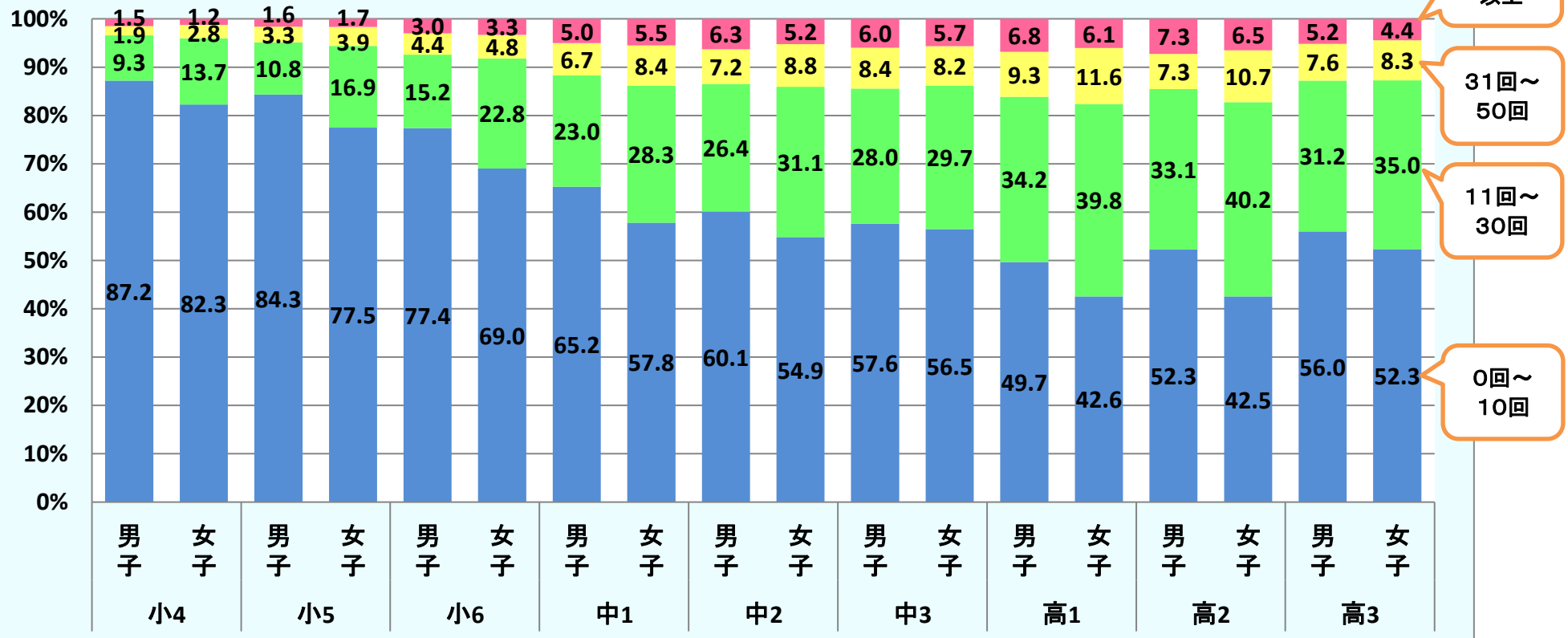
【傾向】

- ・学年が上がるにつれ、使用時間「1時間まで」は減少傾向。
- ・前年度と比較し、ほとんどの学年で、「5時間以上」の使用時間が増加。

【指導・啓発ポイント】

- ・長時間使用は、ネット依存やスマホ依存につながる可能性が高くなる。ペアレンタルコントロール(保護者が子どもの使用時間等をモニタリングする機能)の活用も検討。

Q13.電子メールは、一日に何回ぐらい使いますか。
 (Q11で「ほぼ毎日使う」「たまに使う」と答えた児童生徒のみ回答)



【傾向】

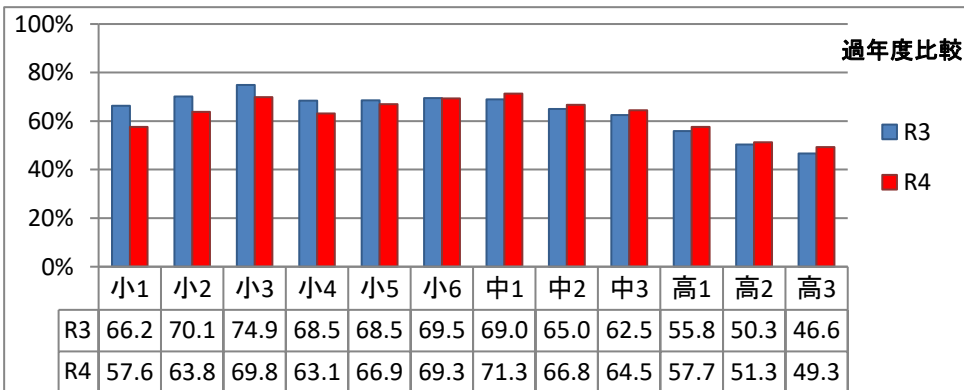
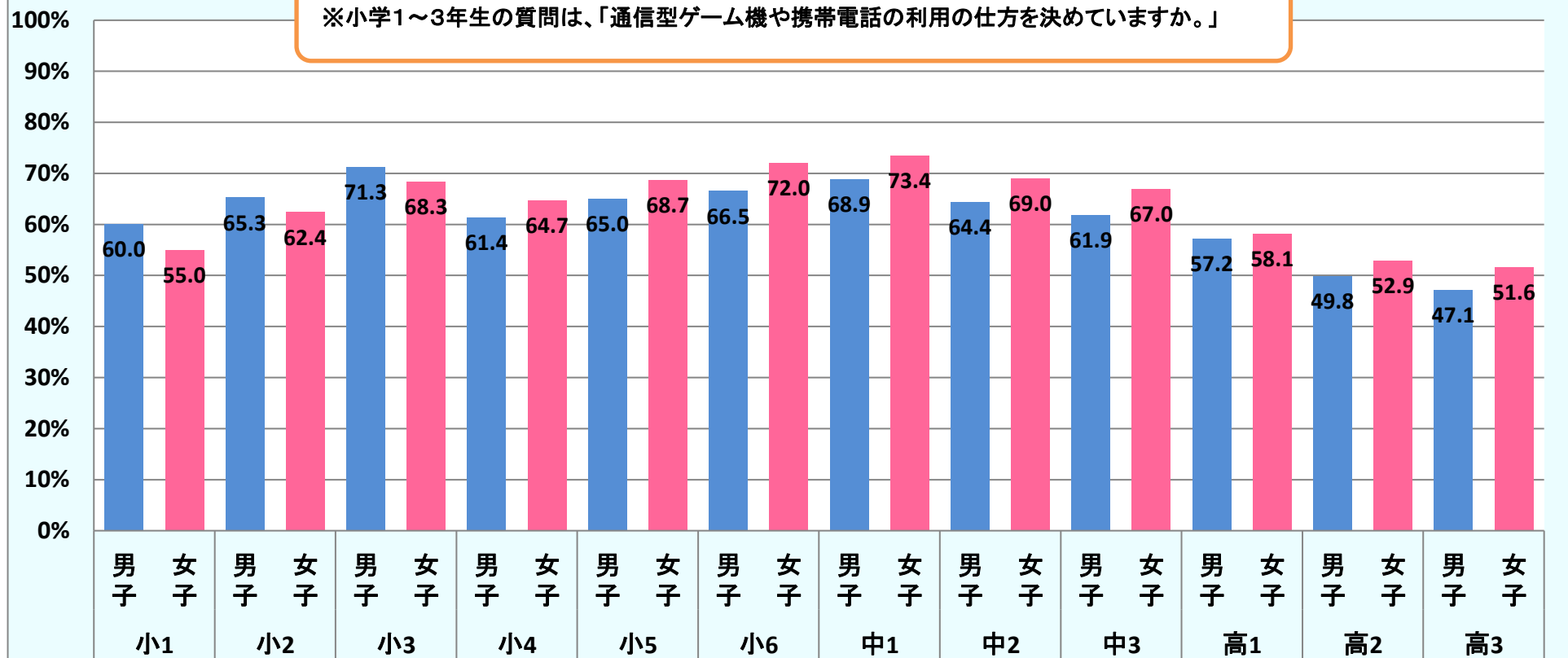
- ・高校生になるにつれ、使用頻度が高くなる傾向。
- ・女子高校生の使用頻度が高い。

【指導・啓発ポイント】

- ・適切な使用方法や使用時間、使用回数等、親子で話し合い、互いに納得してルールをつくる必要がある。

Q14.あなたの家では自分が使う携帯電話の利用の仕方を決めていますか。

※小学1～3年生の質問は、「通信型ゲーム機や携帯電話の利用の仕方を決めていますか。」



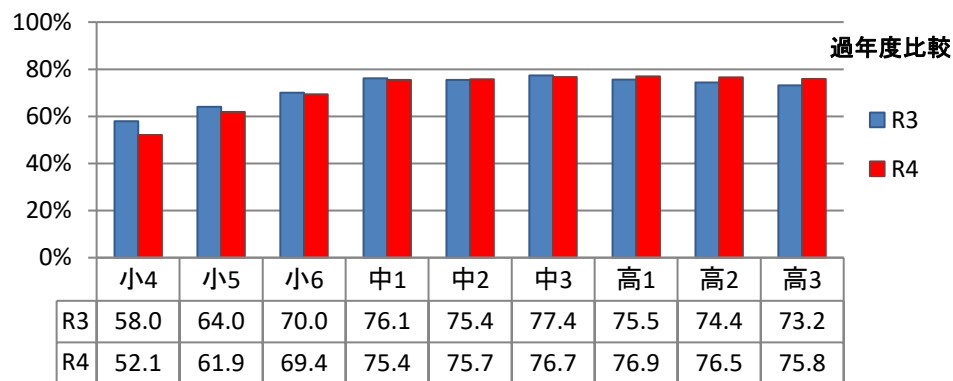
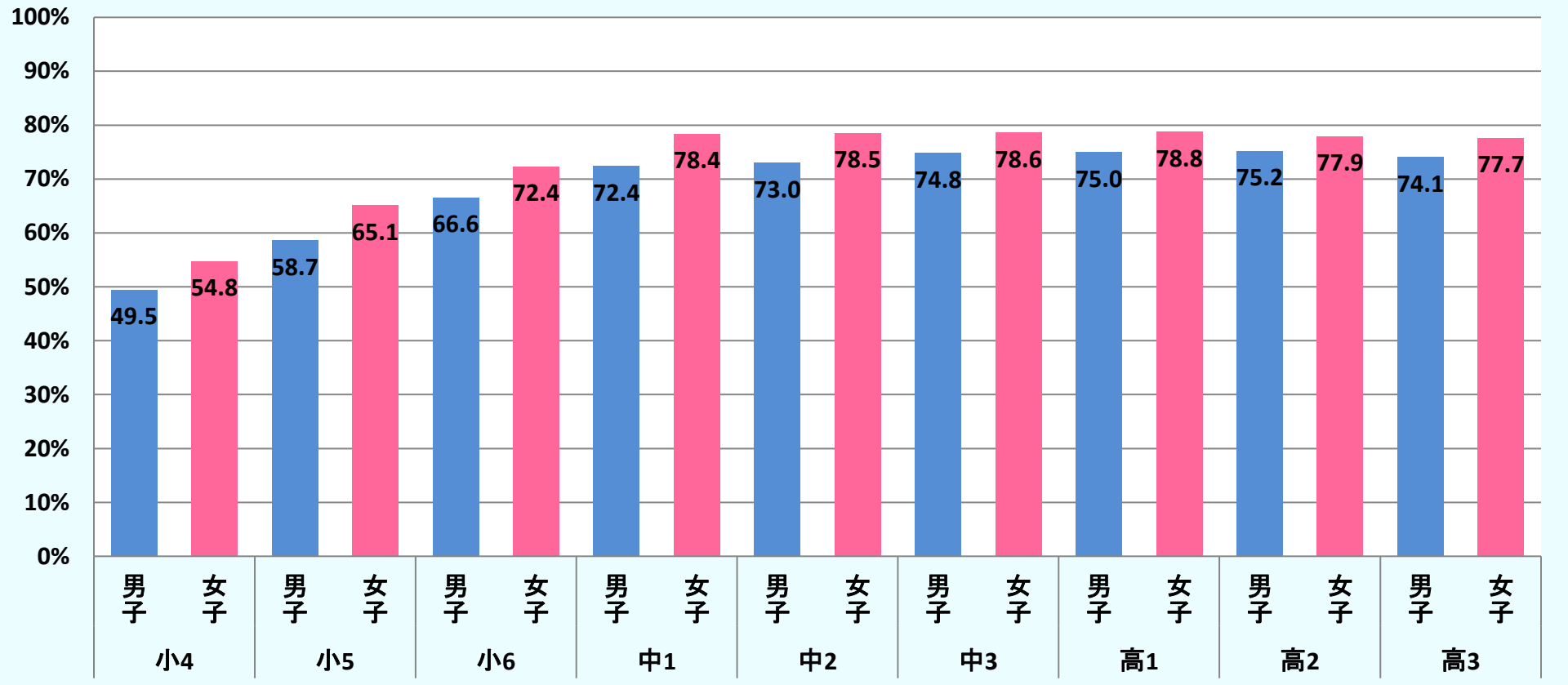
【傾向】

- ・前年度と比較し、小学生は「利用の仕方を決めている」割合が減少。中高生は増加。

【指導・啓発ポイント】

- ・保護者が子どもに携帯電話(スマートフォンを含む)を持たせたときに、話し合って家庭のルールをつくっていくことが必要。
- ・早い段階から、正しい使用の仕方やトラブルに発展する危険性について伝えていくことが必要。

Q15.家で情報モラルや携帯電話のマナーについて話を聞いたことはありますか。



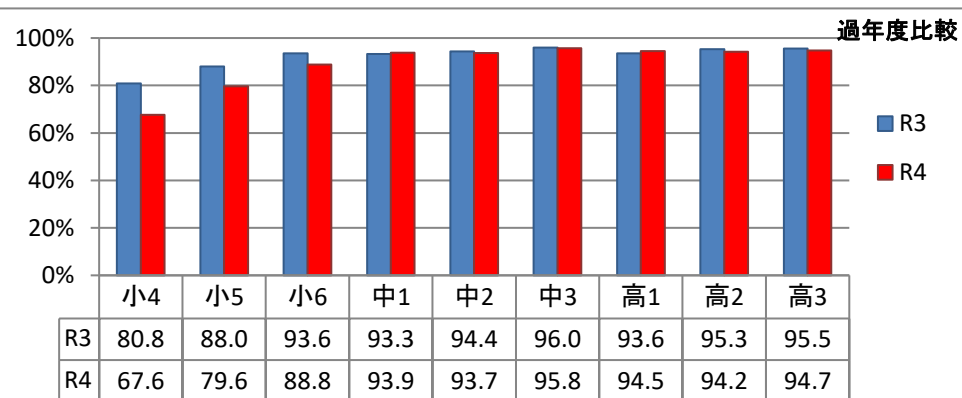
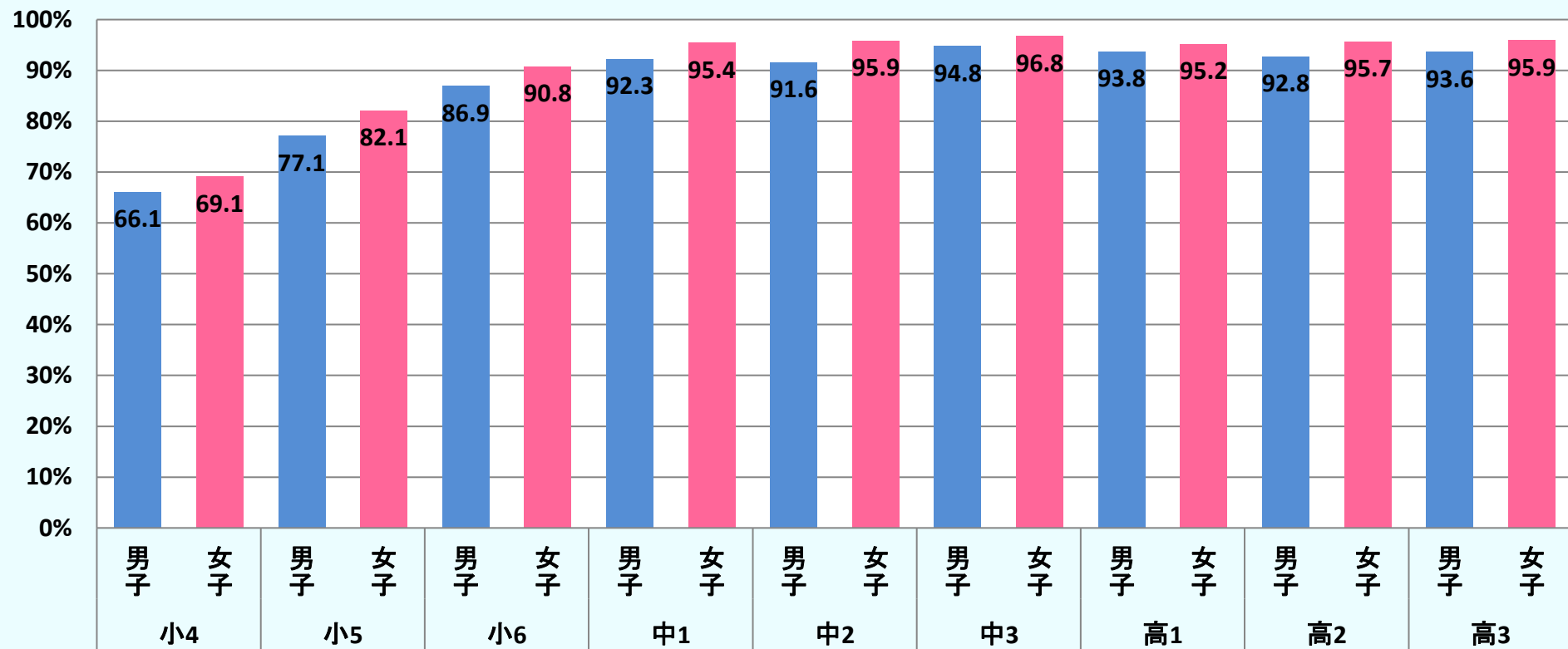
【傾向】

- ・男女とも小学生から中学生にかけて、「話を聞いたことがある」割合が増加。
- ・前年度と比較し、小学生の割合は減少。高校生は増加。

【指導・啓発ポイント】

- ・事件等が報道されたときを機に、保護者が意図的に情報モラルやマナーについて話題にすることが必要。
- ・定期的に家庭のルールを見直すことが必要。

Q16.学校の授業(朝の会、帰りの会を含む)で、情報モラルや携帯電話のマナーについて勉強したことはありますか。



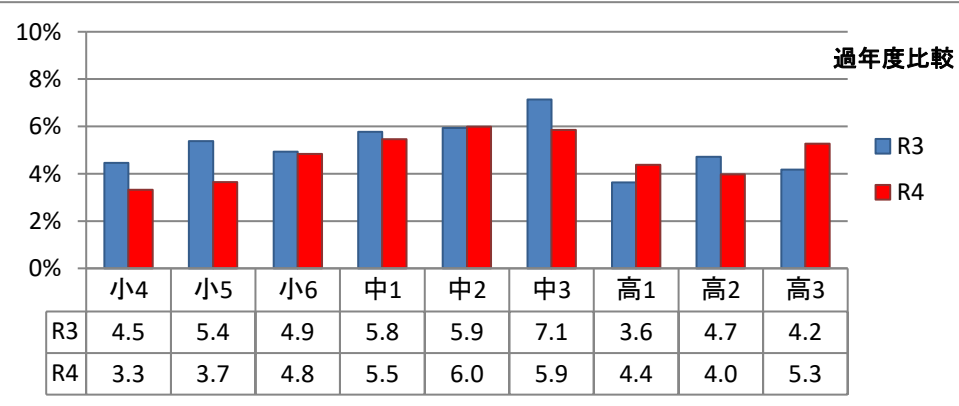
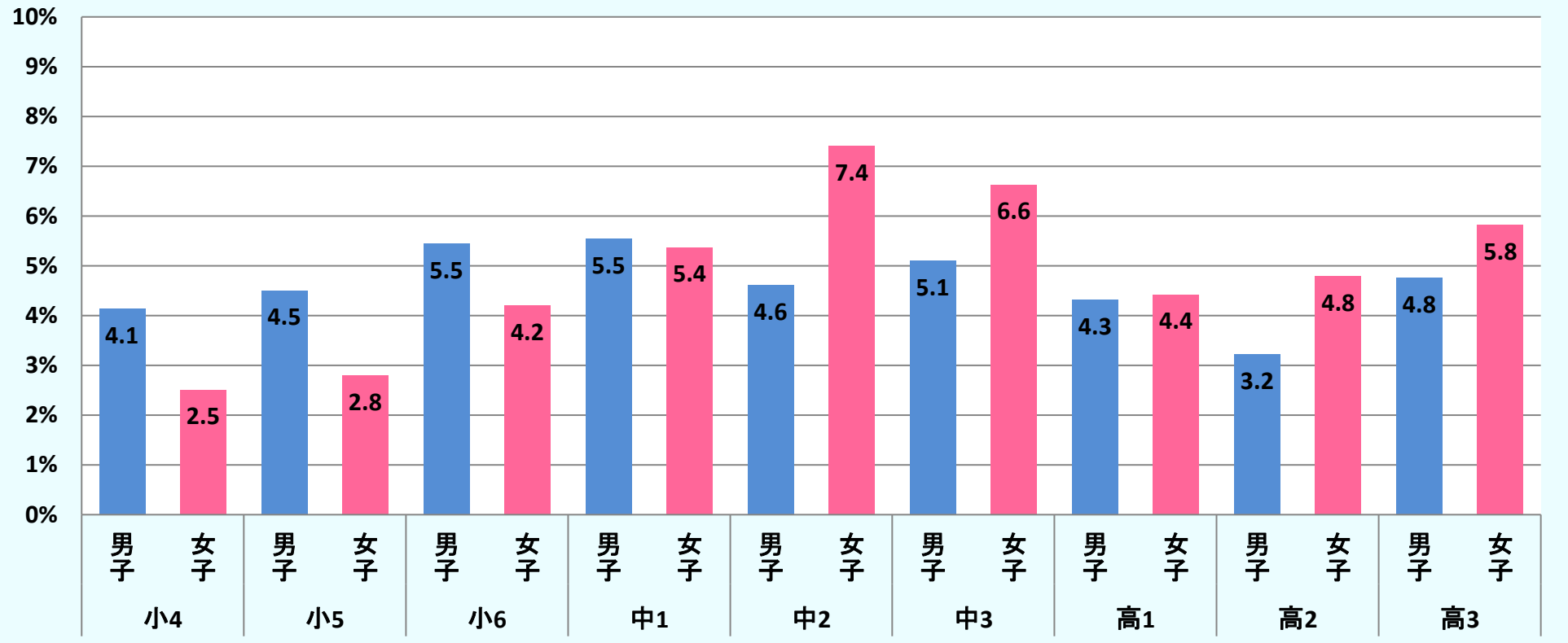
【傾向】

- ・中学校・高校では高い割合(90%以上)を示している。
- ・前年度と比較し、小学校の割合が大きく低下。

【指導・啓発ポイント】

- ・小学生の頃から、いずれ使用者になることを想定した指導が必要。
- ・情報モラルに関わる内容が報道されたとき、SHRや短学活等で意見交流するなど、日常的な指導が必須。

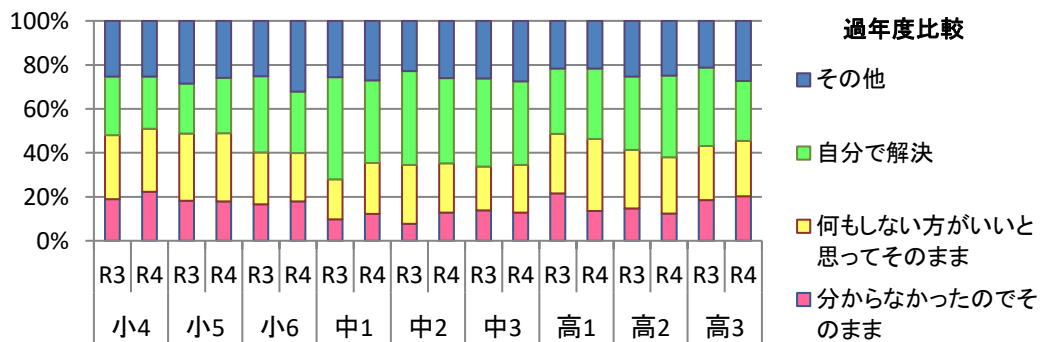
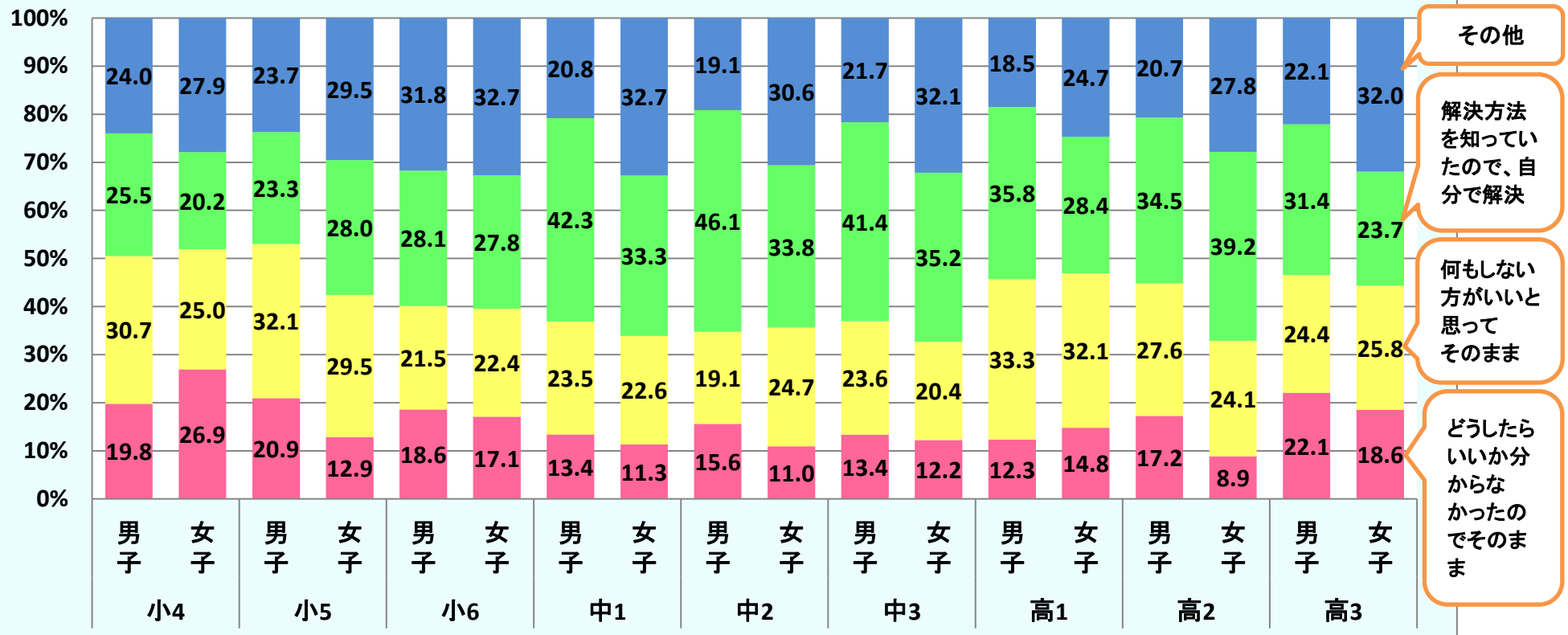
Q17.あなたは、インターネットや携帯電話のメールやチャット、SNSなどで、
被害を受けたり、嫌な思いをしたりしたことはありますか。



【傾向】
・中高生は、女子のほうが高い割合を示す傾向。

【指導・啓発ポイント】
・ネット上の書き込みは、真意が伝わりにくい場合もあり、悪意がなくても、相手に嫌な思いをさせてしまうことがある。アップロードする前に、内容を十分に確認する必要があることを繰り返し指導する。

Q18.被害を受けたとき、どうしましたか。
(Q17で「ある」と答えた児童生徒のみ回答)



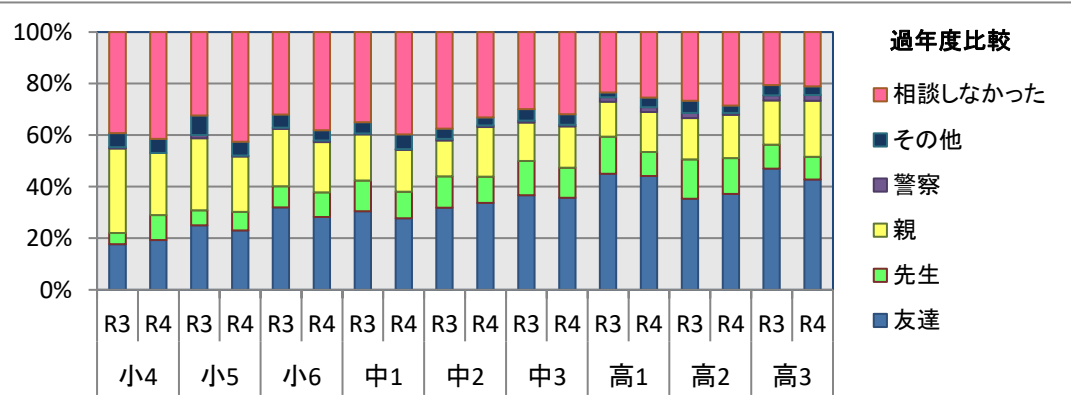
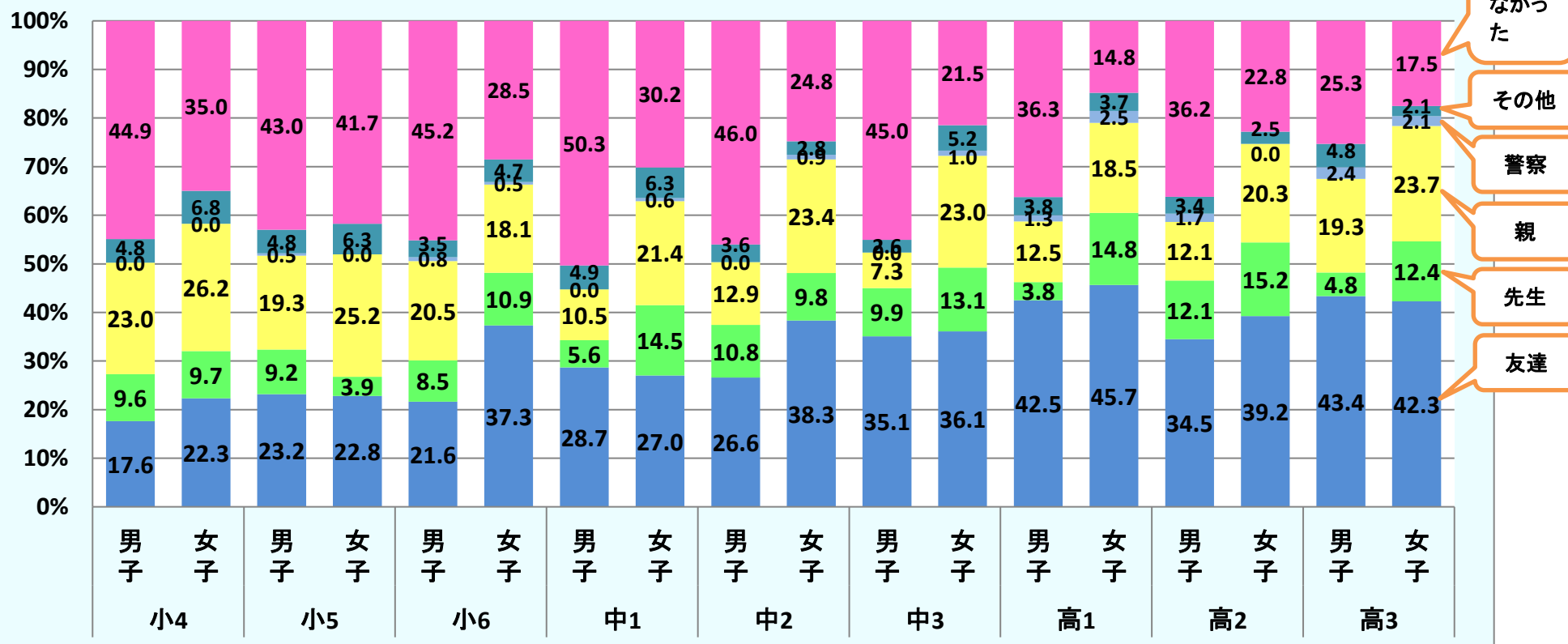
【傾向】

・「何もしない方がいいと思ってそのまま」「どうしたらいいかわからなかったのがそのまま」の割合を合算すると、どの学年も30%を超えている。

【指導・啓発ポイント】

・SNS等の使用頻度が高くなったことで、被害にあう可能性も高くなっている。トラブルを放置したり、一人で抱え込むことがないように指導する。

Q19.被害を受けたとき、誰かに相談しましたか。
(Q17で「ある」と答えた児童生徒のみ回答)



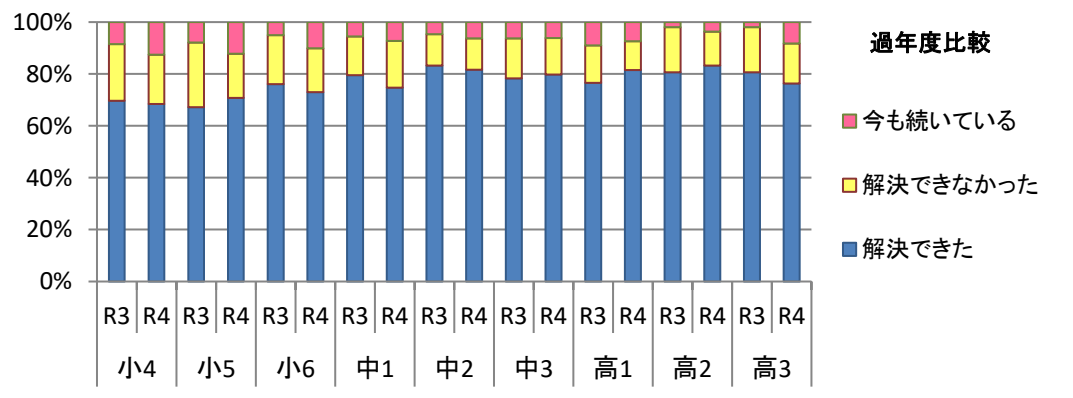
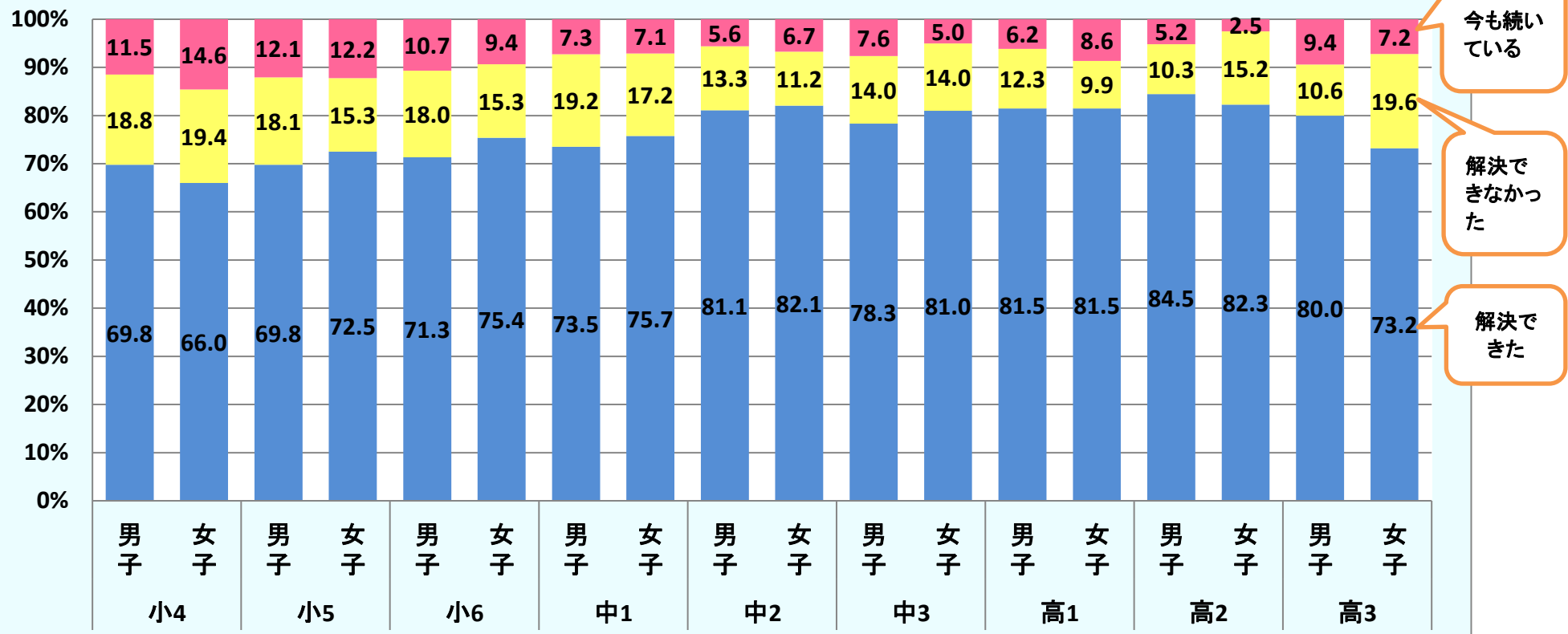
【傾向】

- ・どの学年も、男子の方が、被害を受けても誰にも相談しない割合が高い。
- ・前年度と比較し、誰にも相談しなかった割合が増加傾向。

【指導・啓発ポイント】

- ・保護者や教員と気軽に相談できる関係性を築くとともに、相談窓口の情報を定期的に周知する。

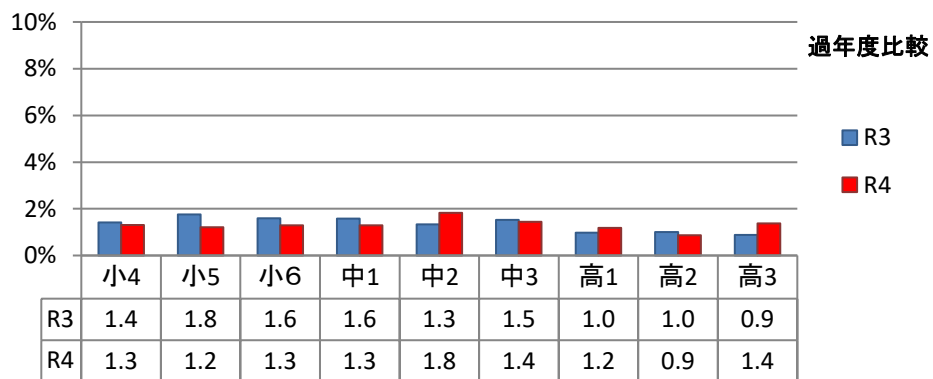
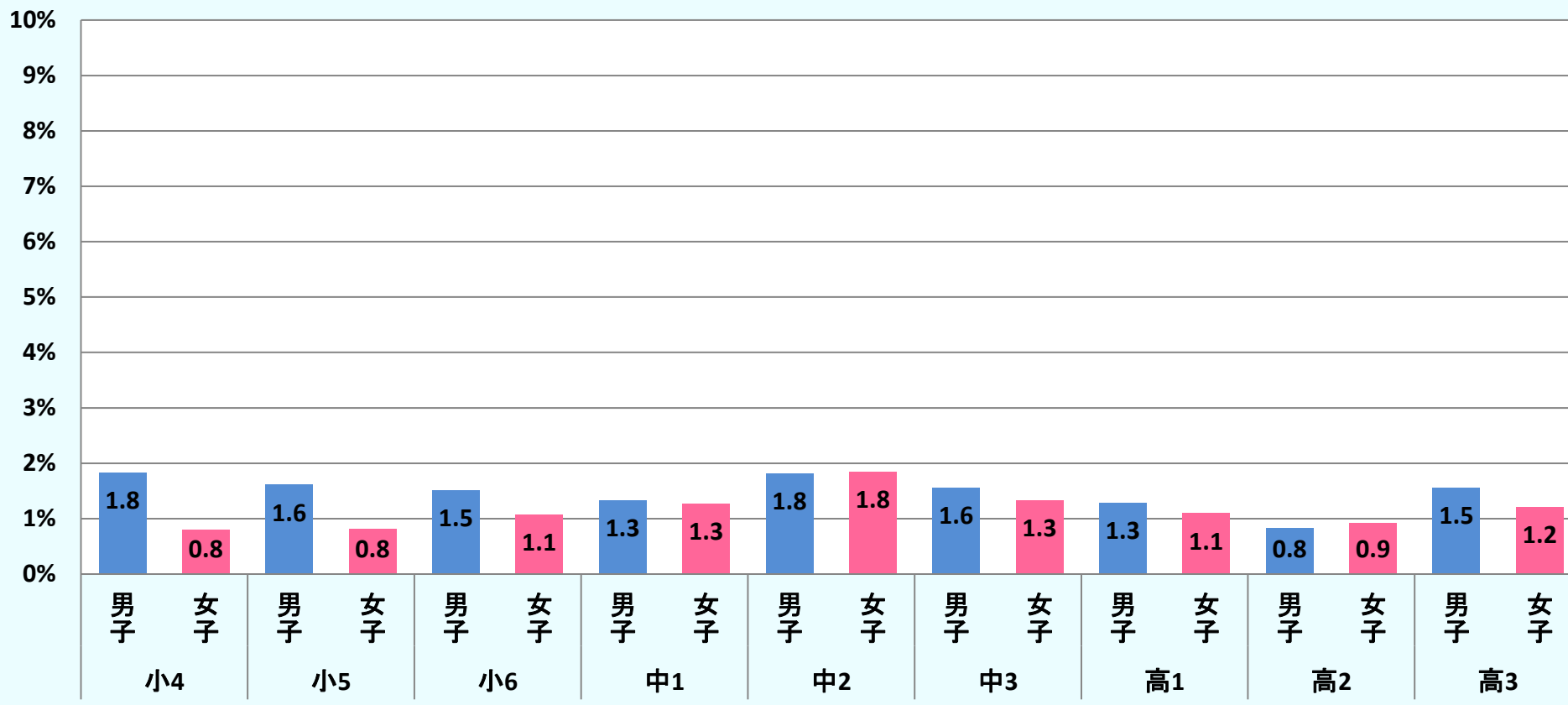
Q20.被害は解決できましたか。
(Q17で「ある」と答えた児童生徒のみ回答)



【傾向】
 ・小学生の「今も続いている」割合が高い傾向。前年度と比較しても増加。

【指導・啓発ポイント】
 ・被害がより拡大することがないよう、身近な大人(保護者や教員等)に相談するよう働きかける。
 ・外部の支援機関を有効に活用するよう、児童生徒・保護者へ周知する。

Q21.メールやチャット、SNSなどの書き込みで、いじめを受けたことがありますか。



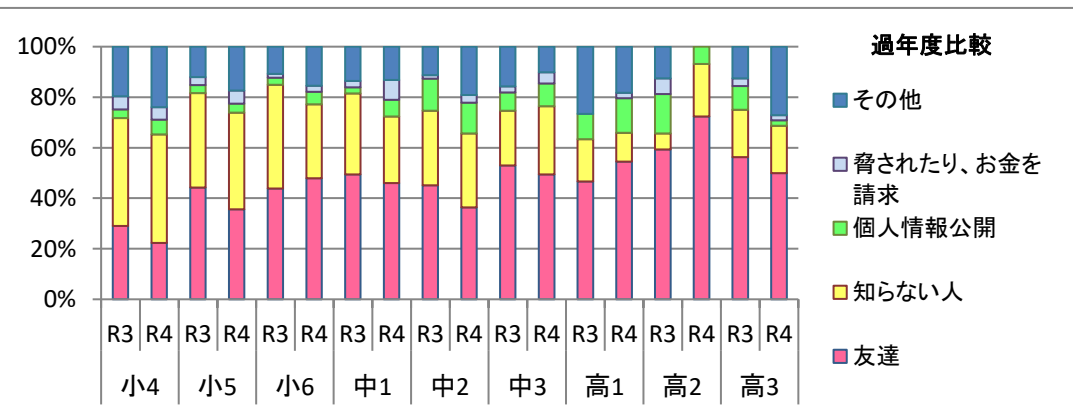
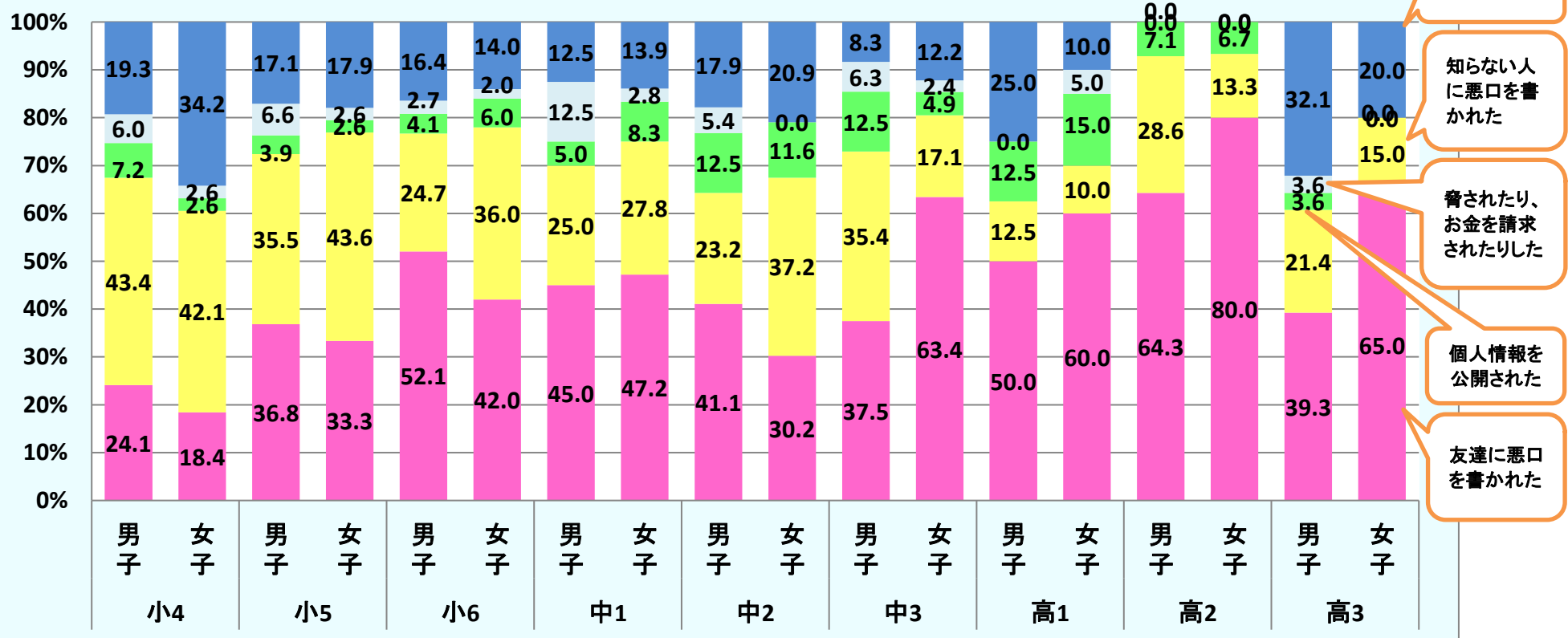
【傾向】

- ・男子の方が高い割合を示す傾向。
- ・前年度と比較し、小学生は減少。

【指導・啓発ポイント】

- ・ネットいじめの具体事例を紹介し、どのような投稿がいじめに該当するのか、児童生徒に考えさせていく。

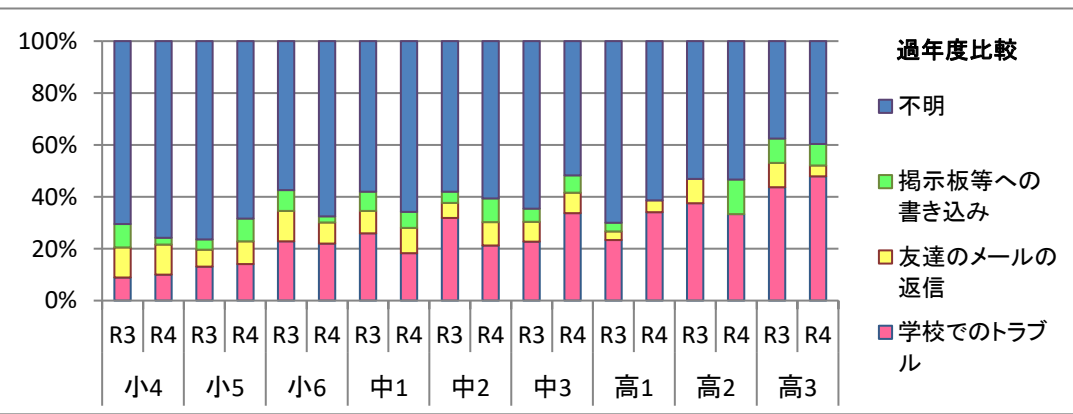
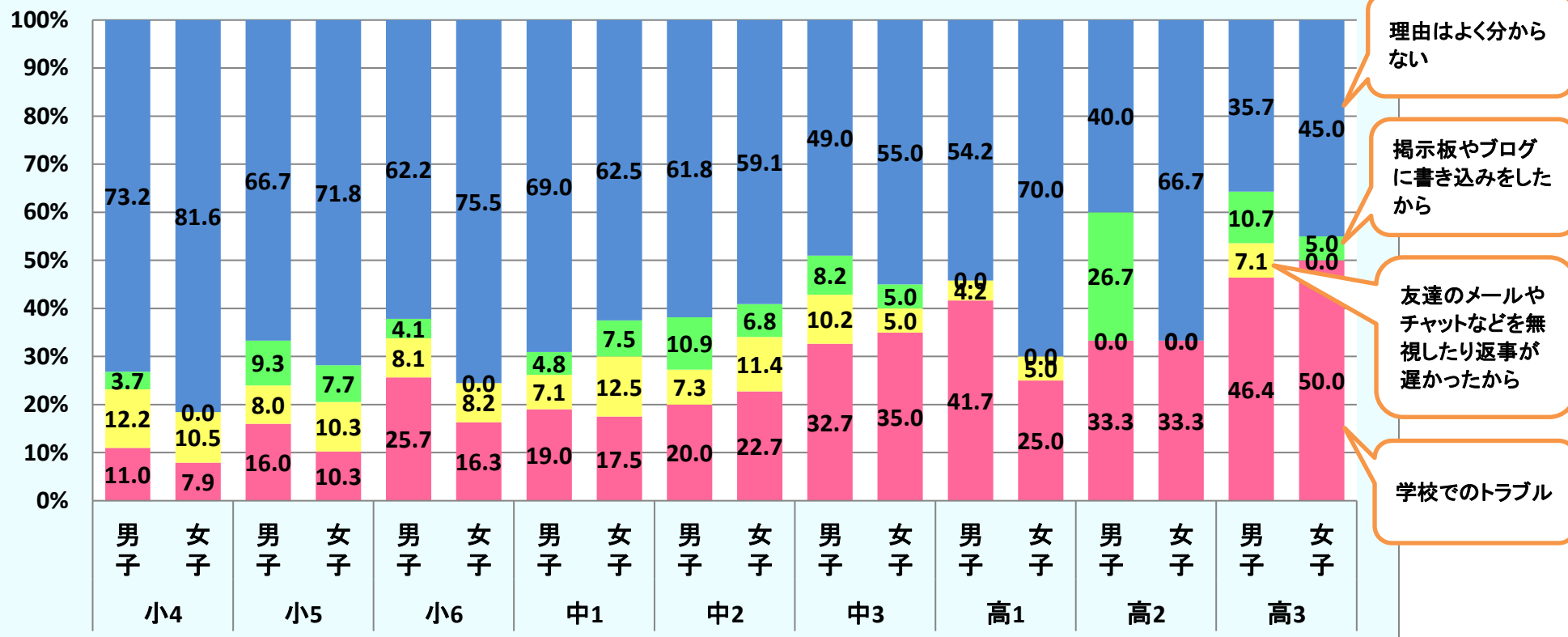
Q22.いじめを受けたと感じた理由は何ですか。
(Q21で「ある」と答えた児童生徒のみ回答)



【傾向】
 ・「知らない人に悪口を書かれた」「友達に悪口を書かれた」の割合を合算すると、どの学年も60%を超えている。

【指導・啓発ポイント】
 ・大きなトラブルや犯罪に発展する前に、SNS等の利用に潜む危険性を日常的に指導する。
 ・フィルタリングの設定について、児童生徒だけでなく、保護者にも継続して啓発する。

Q23.何が原因でネットいじめを受けたと思いますか。
(Q21で「ある」と答えた児童生徒のみ回答)



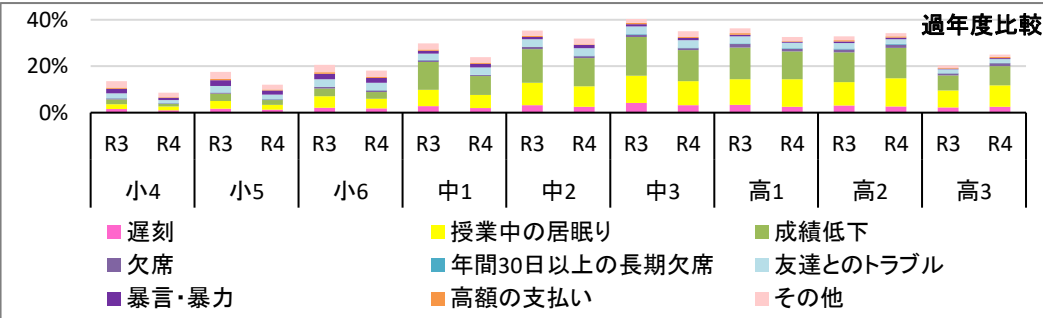
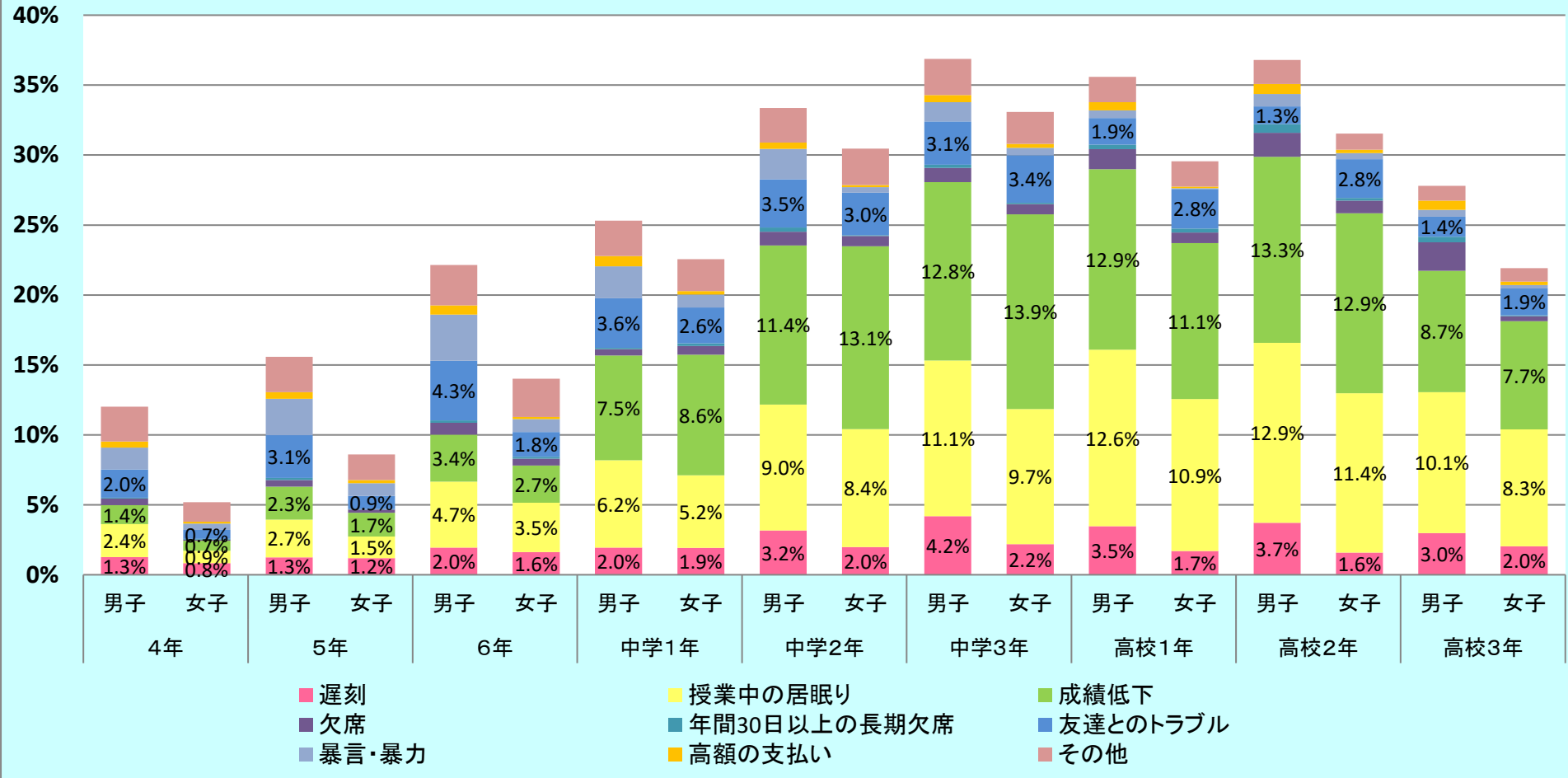
【傾向】

- ・全体的に、「理由はよく分からない」割合が高い。
- ・「学校でのトラブル」に起因するネットいじめの割合が高い傾向。

【指導・啓発ポイント】

- ・学校でのトラブルの延長で、ネットいじめに発展するケースが多いことから、日常の学校生活や人間関係について注視し、きめ細かな指導・助言が必要。

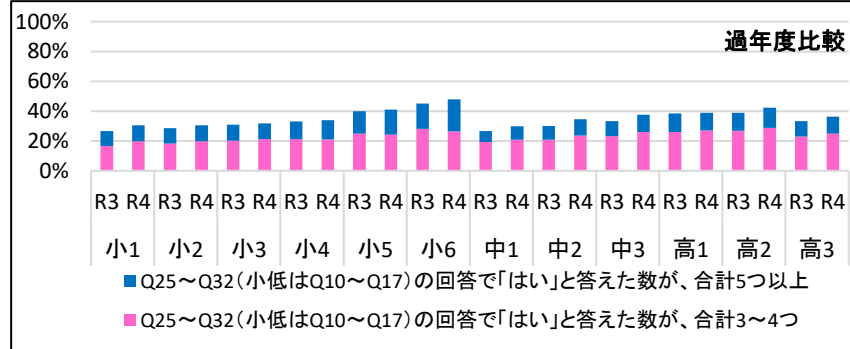
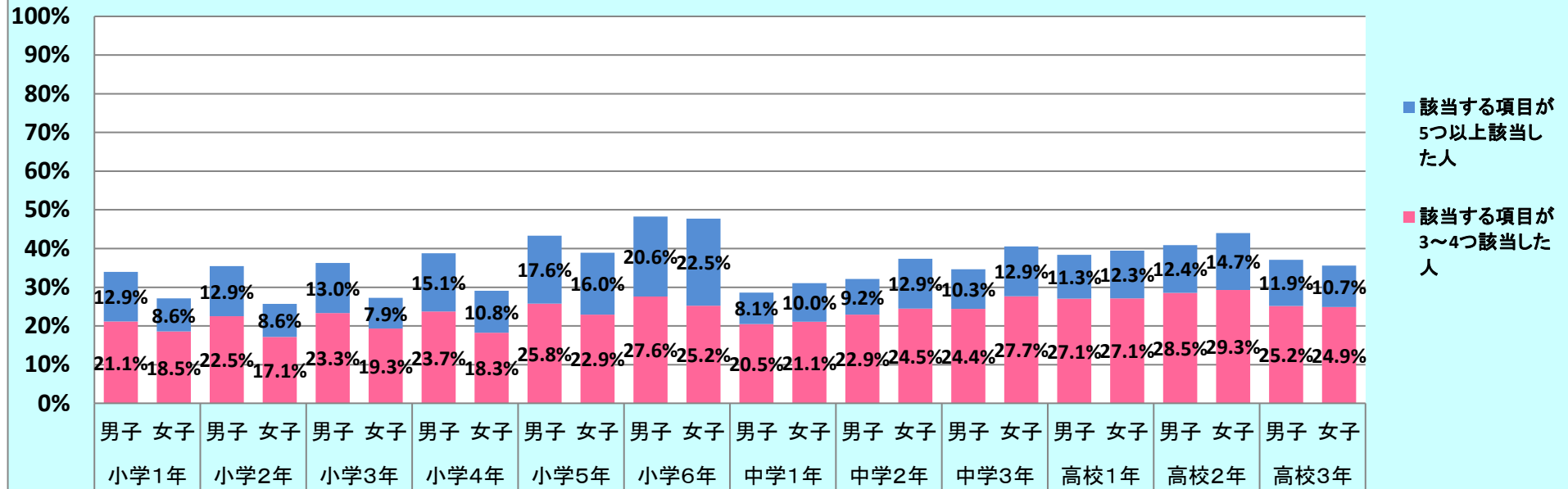
Q24.今までに、インターネットの使いすぎで、何か問題を起こしたことはありますか。



【傾向】
 ・特に中高生は、「成績低下」と「授業中の居眠り」が大きな割合を示す。

【指導・啓発ポイント】
 ・インターネットの長時間利用による、学校生活に及ぼす悪影響の大きさを認識させ、丁寧に指導していくことが必要。

ネット依存傾向について



項目
インターネットに夢中になっていると感じている。
満足感を得るために、インターネットの使用時間を長くしていかなければならないと感じている。
インターネットの使用を制限したり、完全にやめようとしたが、うまくいかなかったことがたびたびあった。
インターネットの使用制限や完全にやめようとしたとき、落ち着かなかったり、不機嫌な気持ちや落ち込み、イライラなどを感じた。
使用前に考えていたよりも長い時間インターネットに接続していたことがある。
インターネットが原因で、人間関係や学校、部活動のことを台無しにしたり、危うくしたりするようなことがあった。
インターネットへの熱中のし過ぎを隠すために、家族や学校の先生、その他の人によろそをついたことがある。
問題から逃げるため、また絶望的な気持ちや罪悪感、不安、落ち込みなどといった嫌な気持ちから逃げるために、インターネットを利用する。

【傾向】

- ・小学生は男子が高い割合を示し、中高生になると女子が高い割合を示す傾向。
- ・前年度と比較し、どの学年も依存傾向が強くなっている。特に、小学6年生は、男女とも高い割合を示す。

【指導・啓発のポイント】

- ・男子児童は、通信型ゲーム機の使用時間が長いことから、保護者と話し合い、家庭のルールを設定したり、見直したりすることが必要。
- ・女子生徒は、電子メール等の使用頻度が高いため、スマートフォンの使用の仕方について振り返らせるなど、継続した指導が必要。
- ・5つ以上該当した児童生徒は、ネット依存の傾向が強い。3~4つ該当した児童生徒もかなり注意を要する状況にある。その為、学校に相談することを促すとともに、スクールカウンセラーや医療機関につなぐことも考えていかなければならない。